

ANNUAL Report

年報 2015



愛媛大学総合情報メディアセンター
Center for Information Technology, Ehime university





総合情報メディアセンターからの メッセージ

総合情報メディアセンター長

高橋 寛

総合情報メディアセンター（CITE：Center for Information Technology, Ehime university）のセンター長を務めております高橋 寛です。今年も年報をお届けします。平成15年4月に発足した本センターは、情報教育、学術研究支援、ネットワーク管理などの幅広い活動を通じて、愛媛大学の情報基盤を支えています。

平成23年4月からは先端研究・学術推進機構に所属するようになり、学生教育や研究活動をはじめとする教職員の円滑な業務遂行のために、情報基盤の改善、維持に携わっています。センター発足から10年あまりが過ぎましたので、昨年度から、総合情報メディアセンター在り方検討ワーキンググループを設置し、今年度も継続的に検討を行っております。

平成26年9月から稼働した情報基盤システムが安定した愛媛大学の情報環境を提供しております。また、新しいサービスとして提供を開始したクラウドメール（Office 365）、ホスティングサービス及びUPKI電子証明書発行サービスの利用も順調に全学に浸透しております。

平成25年度に設置された教育デザイン室では、eラーニングを核とした新しい教育スタイルの普及に向け、積極的に取り組んでいます。最近では、四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業及び大学間連携共同教育推進事業により支援を受けているeラーニングに関する先進的取組を推進しています。この組織を中心に、eラーニングコンテンツの作成やその普及のための取組を行っています。

一方、国立大学法人においても情報セキュリティの脅威を未然に防ぐための方策を実施することやインシデントが発生した場合、早急に適切な対処を行うための仕組みを構築することが望まれています。今後、これらの課題を解決することをサポートする組織としての役割も重要であると考えています。

総合情報メディアセンターが行っているこれら様々な取り組みについて、皆さま方の温かいご支援とご理解をよろしくお願い申し上げます。

センター長あいさつ

1. 部門概要・業績

(1)部門教職員	1
(2)部門概要	2
(3)教員活動実績	8

2. 教育研究実績

(1)研究活動	15
(2)学会発表等	24

3. 教育活動及び教育支援

(1)教育活動	26
(2)教育支援	29

4. 研究活動及び研究支援

(1)研究成果	30
---------------	----

5. 業務関連

(1)沿 革	36
(2)情報基盤システム	37
(3)事業実績	39
(4)利用状況	40
(5)センターイベント	43
(6)各種委員会	44
(7)センター規則	45

(1) 部門教職員(2016年3月現在)

【センター長(兼)】

教 授：高橋 寛

【情報基盤部門】

教 授：川原 稔

准 教 授：阿萬 裕久

助 教(兼)：佐々木 隆志

【情報メディア教育部門】

教 授(兼)：田中 寿郎

准 教 授：和田 武

講 師：仲道 雅輝

【学術情報システム部門】

教 授：中川 祐治

教 授：野口 一人

【その他】

教育支援者：菊川 佳代

【総合情報メディアセンター事務課】

課長

石田 昭夫

副課長

村上 泰彦

総務チーム

チームリーダー(兼)：村上 泰彦, 事務補佐員：白石 瞳, 事務補佐員：窪田 鮎子, 事務補佐員：杉野 知子

電子情報チーム

技術員：池住 元秀, 技術員：渡部 周平, 技術員：梅本 祥史

技術員：吉田 あきえ, 技術補佐員：築地 紅子, 技術補佐員：陣内 恭子, 事務補佐員：村上 鋼次

情報基盤チーム

技術専門職員：宮内 譲嗣, 技術専門職員(重信)：中村 勝

技術専門職員(樽味)：増田 隆司, 技術員：近藤 智幸

(2) 部門概要

【情報基盤部門 (Division of Network and Computing)】

愛媛大学における情報システム、情報ネットワーク、情報セキュリティの整備計画を統括し、研究・教育の高度化・多様化に対応した高度な情報通信技術及び情報セキュリティ技術の導入・運用管理・教育、情報セキュリティ体制の確立・運用管理等、高信頼・高機能の情報ネットワーク及び情報システムを構築することをその目標としている。

平成27年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 愛媛大学情報基盤システムの運用管理

情報基盤システム（平成26年9月1日稼働）は、情報ネットワーク、情報システム、情報教育用PCから構成されている。情報ネットワークに関しては、データセンターを核として愛媛大学の主要キャンパス（城北、重信、樟味、持田）を耐故障性が高められた40Gbps回線（10Gbps×4）で接続したコンピュータネットワーク（MAN）、及び、城北キャンパスー重信キャンパス間を冗長系32Gbpsファイバーチャネルで接続したストレージエリアネットワーク（SAN）で構成しており、高信頼性・高機能性を実現したものである。

情報システムに関しては、通常業務が安定的に行える広域仮想化統合環境を構築して安定的な運用が行えるようになっている。これには、学内向けのOS及びWebのホスティングサービスを数百のレベルでサポートできる人的・機械的体制が含まれている。情報システムを全て仮想化統合環境下で運用できることにより、耐障害性の高度化、無停止運用、事業継続計画（BCP）が可能となっている。

情報教育用PCに関しては、附属学校等を含む愛媛大学全体の情報教育を行えるように、高等学校以上を対象とした教育用PCを1,122台、中学校・小学校・特別支援学校を対象とした初等教育用PCを112台導入し、合計1,234台が全学の演習室等に設置されている。初等教育用PCでは、タッチパネルによる直観的な操作が行える点に、教育用PCでは、医療データ等の表示を正確に読み取れる表示再現能力に重点を置いて導入している。

この情報基盤システムは、総合情報メディアセンター事務課と共同して安定的な運用管理を行っている。情報基盤システムの保守作業を委託している業者とは情報基盤システム保守定例会「システム状況検討会」を開催し、情報ネットワーク及び情報システム（サーバ群、パソコン端末群）の障害対応や改善について指導的役割を果たした。教職員と業者との担当部分を明確にして、専門家がそれぞれの担当部分について運用管理・監視・障害対応が行える体制を構築して、安定した運用を行い続けている。運用管理の補助を行うために、総合情報メディアセンター事務課を中心に申請システムの開発を進め、セキュアゲートウェイ申請、及び、ホスティングサービス申請向けのオンライン申請システムを構築し運用に供している。

2) 情報セキュリティ対策調査及び脆弱性検査

平成26年7月に学外公開申請書が提出されている学内のサーバに対して情報セキュリティ対策状況の調査を行った。調査結果を基に必要と考えられるサーバについて情報セキュリティ対策脆弱性検査を実施し、脆弱性が発見されたサーバ管理者には検査結果を通知して、改善あるいは廃止等の対策勧告を行った。

3) 認証基盤システムの更新・運用管理

平成25年度に構築が行われた認証基盤システムに対して、教職員用のアカウントであった全学メールアドレス（アカウント）、及び、主として学生向けであった情報基盤アカウントを統合し、学生・教職員が唯一のアカウント「愛媛大学アカウント」を所持する環境を構築し、運用管理を行っている。平成27年度中には、学術認証フェデレーション（学認）を構成する現行システムの情報セキュリティサポートの終息問題が発生し、システムを最新版に更新する作業を行った。

4) 学習管理システムの運用管理

情報基盤システムとは独立に運用を行っている学習管理システムMoodleの高負荷な本運用を平成26年4月に開始した。高負荷授業中の常時監視、及び、適宜最適化を行うことで安定運用ができる体制を整えてきた。情報セキュリティ対策、及び、システムメンテナンスも継続的に行っている。平成27年度は、特にシステムの可用性を

高めるため、業務継続計画（BCP）についての改善を進めて、データ保護対策及び障害復旧対策について強化を行った。

5) ホスティングサービスの運用管理

情報基盤システムが更新されたことにより、学内への多くのホスティングサービスに対応できる環境が整備され正式運用を開始した。平成28年3月現在で、OSホスティング38件、Webホスティング70件がサービスされている。制度的にも整備を行い、研究活動や教育活動、更には、地域連携や社会連携にも活用できるプラットフォームとして利用が可能となっている。部局等へのメールサービスについても、ホスティングサービスの一形態として再定義し、運用体制を整備している。

6) クラウドメールの運用管理

平成26年4月よりマイクロソフト社Office 365を用いて、愛媛大学アカウントを認証基盤とした全学クラウドメールを学生・教職員全員を対象として運用を開始した。Office 365に関しては、マイクロソフト社による仕様変更等によるトラブルに対しても、適宜対応を行い安定運用に努め続けている。

7) 学術情報ネットワークSINET 5への移行

学術情報ネットワークが平成28年度からSINET 5に更新されることに伴い、愛媛大学で利用しているデータセンターからSINET 5ノードが設置されているSINETデータセンターへの接続形態の変更を行った。その際、平成27年8月に各種の接続回線の統合を行いSINET 5への接続変更に加え、平成28年2月の接続変更時にはインターネットへのデュアルホーミングを活用して通信のダウンタイム無く移行を済ませることができた。

8) 遠隔拠点の整備

愛媛大学では、地域・社会連携等のため愛媛県内に多くの遠隔拠点を抱えている。遠隔拠点においては、主要キャンパスと変わらない情報ネットワーク環境を提供するため、総合情報メディアセンターではVPN（Virtual Private Network）による遠隔拠点への情報ネットワークを構築して供給している。平成27年5月に野村病院、市立八幡浜総合病院、津島植物工場、平成28年3月に地域協働センターへの情報ネットワーク構築を行った。現在、遠隔拠点用情報ネットワークは19地点となっている。なお、遠隔拠点は新情報基盤システムの一部として機能しており、情報基盤システムとしての安定した運用管理体制となっている。

9) 総合情報メディアセンター第2部会（情報資源・セキュリティ管理部会）

総合情報メディアセンター第2部会では、愛媛大学における情報ネットワークや情報システム等の情報資源、及び、情報セキュリティ関連事項について、整備、立案、予算確保、構築、運用管理等あらゆる審議を行っている。基本的に、部会において情報資源・セキュリティ関連事項について種々の検討を行い、決定事項について必要に応じて教員コア会議・センター会議への審議送り、及び、学長や役員会との調整作業を行っている。平成27年度の部会は、第1回：4月13日、第2回：5月11日、第3回：6月8日、第4回：7月13日、第5回：9月14日、第6回：10月19日、第7回：11月9日、第8回：12月14日、第9回：1月18日、第10回：2月15日、第11回：3月28日に開催した。愛媛大学情報セキュリティ委員会に対する情報セキュリティ対応の役割も果たした。

10) 愛媛大学情報セキュリティセミナーの開催

情報通信技術は導入しただけで終わりという訳ではなく、常に情報セキュリティに注意を払う必要があり、場合によっては、情報セキュリティの面から導入した情報システム等の更新を考える必要もあるため、平成27年9月11日（金）に教職員を対象にした「情報セキュリティセミナー」を開催した。国立情報学研究所教授高倉弘喜氏から「深刻化するサイバー攻撃が及ぼす影響と対策」について、最近の具体的な状況やこれからの全国的な取組み等を、具体的な事例を交えて話があった。

11) 「キャンパスIT体験会2015」の実施

平成27年9月9日（水）13:00～16:00に総合情報メディアセンターにおいて、附属高校の「産業科学基礎」の授業として「キャンパスIT体験会2015」を実施した。講義は「測ってツイート！センサーネットワークに挑戦」（担当：佐々木）を担当した。

12) 松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業支援

平成22年より毎年、松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業に関連し、同校理数科と普通科の生徒を対象として、情報基盤部門の研究生活を学生及び院生のメンターのもとで体験させている。

【情報メディア教育部門（Division of Multimedia Education）】

情報メディア教育部門は、高度情報化技術を活用した情報リテラシー教育及び各種のマルチメディア教育のシステム開発を研究し、実践方法の検討を行うこと、さらに、愛媛大学の情報リテラシー教育を企画・立案するとともに実施方法の検討を行うことをその目標としている。

平成27年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 教育デザイン室の運営

各学部・研究科等において、愛媛大学教育改革促進事業（愛大GP事業）で新設された種目3（授業改善プロジェクト）等を活用し、共通教育科目及び各学部・研究科において、eラーニング教材などICTを用いた授業方法を拡充する。

2) eラーニングコンテンツの制作実績

平成27年度制作予定の20コンテンツ（計137講+PPTブラッシュアップ2件）について、愛大GPに関連するものを3コンテンツ（計9講）、各学部3コンテンツ（計17講）、その他8コンテンツ（計47講）の作成及びPowerPointブラッシュアップを2件行った。そのうち、次年度完成予定のものが5コンテンツ（64講）である。

No.	科 目	備 考
1	日本語リテラシー入門【共通教育】	1講／全1講
2	シミュレーション教育教材【医学部】	1講／全1講
3	プレゼンテーションスキル能力開発【工学部】	7講／全7講
4	放射線と人体影響（継続1／3章）【医学部】	1講／全1講
5	安全衛生マニュアル【医学部】	1講／全1講
6	地球科学【社会共創学部】	15講／全15講
7	化学【社会共創学部】	15講／全15講（次年度持越）
8	微分積分【社会共創学部】	15講／全15講（次年度持越）
9	科目調整【社会共創学部】	次年度持越
10	科目調整【社会共創学部】	次年度持越
11	入院関連機能障害予防に向けた運動プログラム【医学部附属病院】	1講／全1講
12	インドネシアの文化と会話～KiraKiraインドネシア【SUIJI推進室】	4講／全8講
13	タンパク質で生命を斬る【知プラ事業】	9講／全9講
14	古代鉄【知プラ事業】	8講／全8講
15	数理統計演習テキスト（HTML）【8大学連携】	1講／全1講
16	統計的データ解析【8大学連携】	10講／全10講
17	教員免許更新講習①【8大学連携・KAGAC】	7講／全7講
18	教員免許更新講習②【8大学連携・KAGAC】	7講／全7講
19	COC+カリキュラム（PowerPointブラッシュアップ）	全1p
20	クォーター制度について（PowerPointブラッシュアップ）	全12p

3) 修学支援システムとの連携

・修学支援システムからMoodleコースへの履修学生データ送信開始日を共通教育抽選日の翌々日とした。

4) 共通教育TA・SA研修として「情報リテラシー入門TA・SA研修」を実施した。（平成27年4月9日(木)16:20～17:30）主な内容は次のとおりである。

- ・TAとSAの役割について
- ・センター機器の操作について

- ・ eラーニングシステムの利用について
 - ・ TAとSAの業務確認ならびにマネージメントについて
 - ・ グループワーク
- 5) eラーニングシステム上に情報リテラシー入門担当教員・TA・SA専用コンテンツを作成し、TA・SA業務内容の周知・徹底を図るとともに、毎回の業務報告を提出する場及び情報交換の場として活用した。
- 6) 共通教育科目「情報リテラシー入門」を、習熟度別クラス編成による全学共通シラバスのもとでeラーニングによる共通コンテンツを活用した授業として実施した。第1回授業のオンライン習熟度別振り分け試験、その結果に基づいた習熟度別クラス振り分け、また、オンライン確認テスト、オンライン模擬テスト、オンライン期末テストの実施に積極的に携わった。
- 7) 総合情報メディアセンター第3部会「eラーニング推進部会」に於いてeラーニング推進について種々の検討を行った。開催日程及び審議・報告事項等は下表のとおりである。

回	日 時	審 議 事 項 等
第1回	平成27年5月12日(火)	平成27年度「eラーニング推進部会」委員について 平成27年度「eラーニング推進部会」開催日について 平成27年度eラーニング推進部会事業計画(案)について 平成27年度課題スケジュール(案)について 平成27年度コンテンツ開発計画(案)について ICT利用状況アンケートの実施について Moodle利用状況について 四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業用Moodle運用について 情報リテラシーでの同時接続について
第2回	平成27年6月9日(火)	課題スケジュールについて 平成27年度コンテンツ開発計画について ICT利用状況アンケートについて 平成27年度eラーニング課題スケジュール(案)について ICT利用状況アンケートについて Moodleコース容量の上限設定について アンケートの分岐設定及び参加者登録に関する調査報告
第3回	平成27年7月14日(火)	平成27年度コンテンツ開発計画の変更・追加について コンテンツ開発の後期募集について Moodleコース作成時のコース統合及びコース作成完了メールについて Moodle2.7へのバージョンアップに伴うシステム停止について Moodle2.7バージョンアップの検証結果報告 情報リテラシー入門試験期間中の評定機能利用制限について Moodle2.7バージョンアップの内容について eラーニングコンテンツ制作・運営に関するアンケート結果について 教育デザイン室Webサイトリニューアルについて
第4回	平成27年10月13日(火)	平成27年度課題スケジュールの進捗状況中間報告に向けて 平成27年度コンテンツ開発計画の一部変更について ICT利用状況アンケート結果について 平成27年度前期Moodleコース利用状況について ICT研修会の開催報告 教育デザイン室Webサイトリニューアル公開について
第5回	平成27年11月10日(火)	平成27年度課題スケジュールの中間報告 Moodle 2 試験運用版の運用停止について eラーニングニュースVol. 18の発行について

第6回	平成28年1月19日(火)	平成28年度ICT利用状況アンケートについて Moodleコース申請及び作成のクォーター制対応について 平成27年度コンテンツ開発計画の変更について 平成27年度課題スケジュールの最終報告に向けて 平成28年度コンテンツ開発募集について 日本語リテラシー入門でのコピペの問題について
第7回	平成28年3月1日(火)	課題スケジュール最終報告 平成28年度eラーニング推進部会委員について 平成27年度Moodleコース申請状況について Moodleバージョンアップについて MoodleにおけるDB抽出機能の追加についてのご報告

- 8) 著作権戦略検討部会に委員（仲道雅輝）として参加し、愛媛大学の著作権戦略について検討を行った。
- 9) 教育・学生支援機構主催の「FDスキルアップ講座」及び「テニユア・トラック研修」の講師として11講座合計12回を実施した。
- ・「はじめてのMoodle（Moodle入門編）」（仲道雅輝，平成27年7月10日）
 - ・「統計ソフト（Access）利用法」（都築和宏，平成27年8月1日～9月30日※eラーニング）
 - ・「アカデミックプレゼンテーション（PowerPoint編）」（仲道雅輝，平成27年8月3日～8月30日※eラーニング）
 - ・「学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナル・デザイン（ID）入門～ARCS動機付けモデルの活用」（仲道雅輝，平成27年9月4日）
 - ・「情報科学応用編（Access）」（瀧本笑子，平成27年9月10日～11日，17日～18日）
 - ・「効果的なeラーニング活用法（超入門編）」（都築和宏，平成27年9月11日）
 - ・「PowerPointの基本的な使い方」（都築和宏，平成27年9月17日）
 - ・「eラーニング入門～Moodleを利用してきめ細やかな学習支援を実現しよう～」（佐々木隆志，仲道雅輝，9月18日）
 - ・「動画教材作成法」（都築和宏，平成27年9月25日）
 - ・「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法」（仲道雅輝，平成28年1月14日）
 - ・「Moodleを用いたテスト・ディスカッションの効果的な活用と設計（応用編）」（佐々木隆志，仲道雅輝，平成28年3月11日）
- 10) Moodle利用数の推移（平成23年～平成27年度）
- 2014年度と比較し，コース申請数1,004（増：2.3%），申請教員数408名（139名増：51.6%）の増加となった。

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
コース数	349	410	569	981	1,004
申請教員数（実数）	93名	123名	177名	269名	408名
登録学生数（累計）	17,785名	21,279名	25,331名	60,399名	52,712名

【学術情報システム部門 (Division of Information System)】

学術情報システム部門は、学内ネットワークを含めた情報システムの安全かつ効率的な運用を行うための研究開発及び学内の先端的研究センターへのデータベース構築、情報発信面での研究協力・支援を行う。

平成27年度の主な活動は以下のとおりである。

1) 愛媛大学と松山大学との連携事業

「オープンデータの利活用に関するCode for DOGOの活動とアプリ開発」と題して、本学の教員と学生及び松山大学の教員と学生によるチームを構成し、行政機関が保有するオープンデータを用いた活動を開始した。活動としては、月一回の定例会（4/25, 5/9, 6/4, 7/2, 8/3, 9/18, 10/15, 11/16, 12/11, 1/6, 2/15, 3/5に開催）と各種セミナーの開催（マッピングパーティ 5/23, OpenDataフォーラムⅠ 7/8, OpenDataフォーラムⅡ 7/29, 愛媛県ICT推進会議での講演 11/5, 3Dモデリングセミナー 12/9, LinkDataハンズオン 1/15), 愛媛県内市町村のオープンデータ公開状況調査(今治市調査 8/24, 西予市調査 3/23), International Open Data Dayへの参加（3/5）, 各地のCode for Xの活動状況調査（Code for Japan 11/6, Code for Kanazawa 11/23）, 東京大学空間情報科学研究センター「次世代社会基盤情報寄付研究部門」及び一般社団法人「社会基盤情報流通推進協議会」が主催する『アーバンデータチャレンジ2015』に参加した（6/22, 9/29, 2/26）。

2) e-まつやま最先端情報技術研究会における研究及び人材育成

2008年に、愛媛大学・松山市・松山法人会及び松山商工会議所による合同研究会「e-まつやま最先端情報技術研究会」が発足し8年目を迎えた。本研究会は、先進的な情報通信技術全般について調査・研究等を行い、その有効性等を検証するとともに、地域の人材育成や地域産業の活性化を図ることを目的として設立されたが、発足当初は潤沢にあった研究費が目減りし、今後の活動内容や研究費調達について議論を重ねてきた。その結果、研究についてはオープンデータの公開と利活用について進めることとなっている。人材育成面では、数学科3年生の数学セミナーⅡで三次元物体のデータ構築に用いられるBlenderを取り上げ、上記Code for DOGOのセミナーとして開催した3Dモデリングセミナーに参加し、愛媛県の公式キャラクターである「みきゃん」の3Dデータを作成した。

3) 愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会での貢献

愛媛県警よりネットワーク上で犯罪の可能性を調査する「サイバーパトローラー」を引き続き学生に委嘱したいとの依頼を受けて、本学より10名の学生（学部生及び大学院生）を選抜し、7月7日に愛媛県警本部において委嘱式が執り行われた。サイバーパトローラーとして委嘱された学生は県警のサイバー犯罪対策室と連携して調査及び情報収集に当たった。また、愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会では引き続き顧問として、セミナーの講師招請などを行った。

4) 愛媛大学業務継続計画策定ワーキンググループ

平成23年度から業務継続計画策定のために開始されたワーキンググループで、これまでに策定された計画(BCP)の見直しと、その推進計画について議論した。また、本学と松山東警察署との間で、大規模災害時等有事の際に、松山東警察署が代替施設として本学の施設、設備等を使用できるようにすることを主な内容とする連携協定を締結する。さらに、安否確認についてはこれまで議論されてきたメールの一斉送信ではなく、「愛媛大学緊急連絡サイト」を作成し、緊急時に各自がサイトにアクセスし安否状況を登録する仕組みとした。

5) 「キャンパスIT体験会2015」の実施

9月9日(水)13:00から16:00に総合情報メディアセンターにおいて、附属高校の「産業科学基礎」の授業として「キャンパスIT体験会2015」を実施した。講義は「Processingをはじめよう」(担当:中川),「パソコンでグラフを描こう」(担当:野口)の2つを担当した。

(3) 教員活動実績



中川 祐治
NAKAGAWA Yuji

生年月日：1957年12月14日

職名：教授

電話：089-927-9569

E-mail：nakagawa.yuji.mk@ehime-u.ac.jp

職歴：●(株)富士通研究所情報処理研究部門パターン研究部研究員（1986年4月～1989年12月）
●鹿児島大学助教授（1990年1月～1990年3月）
●鹿児島大学情報処理センター主任／助教授（1990年4月～1993年3月）
●国際基督教大学助教授（1993年4月～1995年3月）
●国際基督教大学準教授（1995年4～1996年6月）
●愛媛大学教授（1996年7月）

学歴：東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了
学位：1986年理学博士（東京都立大学）

免許・資格：●(公)日本シェアリングネイチャー協会認定「ネイチャーゲームリーダー」（1999年8月）
●NPO法人自然体験活動推進協議会認定「自然体験活動リーダー」（2003年4月）

所属学会：人工知能学会，情報処理学会，電子情報通信学会，日本データベース学会，ACM，コンピュータ利用教育学会，高エネルギー物理学研究者会議，日本環境教育学会，日本環境教育フォーラム

専門分野：情報認識学，高エネルギー物理学，環境教育
研究課題：画像認識・理解の研究，遠隔教育システムの研究，環境教育と情報認識学の融合

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員（2011年4月～）
●第1部会（システム最適化）部会長（2011年7月～）
●業務継続計画策定ワーキンググループ（2011年11月～）
●総合情報メディアセンター在り方検討ワーキンググループ（2014年～）

学外審議会・委員会活動：

●愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会顧問（2007年12月～）

調査・研究会等への貢献：

●愛媛大学社会連携推進機構研究協力会「e-Learning研究部会」代表（2007年7月～）
●e-まつやま最先端情報技術研究会理事（2008年4月～）

講演実績：●「Processingをはじめよう」，キャンパスIT体験会2015，愛媛県（2015年9月）

地域啓発活動・教育機関支援活動：

●Code for DOGO代表（2015年3月～）
●愛媛県シェアリングネイチャー協会理事及び事務局長（2005年4月～）

ボランティア活動：

●愛媛県シェアリングネイチャー協会道後シェアリングネイチャーの会運営委員長（2007年1月～）



野口 一人
NOGUCHI Kazuto

職名：教授

電話：089-927-8802

FAX：089-927-8805

E-mail：noguchi.kazuto.mx@ehime-u.ac.jp

職歴：●日本電信電話株式会社フォトニクス研究所・他勤務（1986年4月～2011年6月）
●愛媛大学教授（2011年7月）

学歴：早稲田大学大学院理学研究科修士課程修了
学位：2001年博士（工学）（早稲田大学）

免許・資格：第一種衛生管理者

所属学会：電子情報通信学会，応用物理学会，IEEE，遠隔医療学会

専門分野：光デバイス, 光波長多重通信, 情報ネットワーク

研究課題：光・情報ネットワークの高度化, 医療ICT

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員（2011年7月～）

●情報資源・セキュリティ管理部委員（2011年7月～）

●安全衛生管理委任者（2013年1月～）

調査・研究会等への貢献：

●大学プログラミングオープンチャレンジ（EPOCH@まつやま）実行委員（2011年）

●第73回応用物理学会学術講演会現地実行委員（2012年9月）

●電子情報通信学会ネットワークシステム研究会・無線ネットワークシステム研究会現地世話人（2012年12月）

●電子情報通信学会光通信システム研究会現地世話人（2013年1月）

●日本胎児心臓病学会日本胎児遠隔医療研究会幹事（2013年2月～）

●えひめITフェア2013（2013年6月）

●電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ研究会現地世話人（2013年12月）



川原 稔

KAWAHARA Minoru

職名：教授

電話：089-907-6700

FAX：089-927-8805

E-mail：kawahara@ehime-u.ac.jp

職歴：●京都大学助手（1990年4月～2004年2月）

●愛媛大学助教授（2004年3月～2007年3月）

●愛媛大学准教授（2007年4月～2013年1月）

●愛媛大学教授（2013年2月）

学歴：京都大学大学院工学研究科応用システム科学専攻修士課程修了

学位：2003年博士（情報学）（京都大学）

所属学会：電子情報通信学会, 情報処理学会

専門分野：情報通信システム, 情報ネットワーク, 知能情報学, 情報保障, オペレーションズリサーチ

研究課題：●オーバーレイネットワークを基盤とした自律協調分散システムに関する研究

●アドホックネットワークにおける情報ネットワーク新技術開発に関する研究

●情報ネットワークを基盤としたロケーション

ウェアに関する研究

●視覚情報保障の情報通信技術応用に関する研究

●情報通信技術による視覚特性の計測に関する研究

●数理モデルを用いた地域連携・産学連携問題解決法に関する研究

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員（2011年4月～）

●第2部会（情報資源・セキュリティ管理部）部会長（2011年7月～）

●情報基盤システム保守定例会（システム状況検討会）議長（2011年4月～）

●愛媛大学最高情報セキュリティアドバイザー（2012年9月～）

●情報セキュリティ専門委員会委員長（2012年9月～）

●情報セキュリティ委員会委員（2012年9月～）

学外審議会・委員会貢献：

●電子情報通信学会コミュニケーションクオリティ研究専門委員会専門委員（2007年4月～）



和田 武

WADA Takeshi

生年月日：1950年8月12日

職名：准教授

電話：089-927-8801

FAX：089-927-8805

E-mail：wada@cite.ehime-u.ac.jp

学 歴：広島工業大学工学部電子工学科卒業

学 位：1995年6月博士（医学）（愛媛大学）

免許・資格：●安全衛生管理者

●防火管理者

●統計士

所属学会：情報処理学会，日本教育情報学会，コンピュータ利用教育学会

専門分野：教育工学、情報教育、e-Learning

研究課題：●インターネット俳句サーバの運用に関する研究

●教育情報の利活用に関する研究

●テスト理論に関する研究

●データマイニングに関する研究

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員（2011年4月～）

●化学物質管理システム運用分科会委員（2003年12月～）

●共通教育情報リテラシー入門チーム委員（2012年4月～）

●契約審査委員会（ScienceDirectの利用）委員、2014年12月、計2回）

●総合情報メディアセンター第3部会「eラーニング推進部会」（2012年4月～）



阿萬 裕久

AMAN Hirohisa

生年月日：1973年8月8日

職名：准教授

電話：089-927-8981

FAX：089-927-8805

E-mail：aman@ehime-u.ac.jp

職 歴：●愛媛大学工学部助手（2001年4月～2005年3月）

●愛媛大学工学部特任講師（2005年4月～2006年3月）

●愛媛大学大学院理工学研究科特任講師（2006年4月～2007年3月）

●愛媛大学大学院理工学研究科講師（2007年4月～2013年9月）

●愛媛大学総合情報メディアセンター准教授（2013年10月～）

学 歴：九州工業大学大学院工学研究科博士後期課程修了

学 位：2001年博士（工学）（九州工業大学）

免許・資格：第一種衛生管理者

所属学会：情報処理学会，電子情報通信学会，日本ソフト

ウェア学会，日本知能情報ファジィ学会，米国電気電子学会（IEEE）

専門分野：ソフトウェア工学

研究課題：●ソフトウェア品質に関する定量的尺度の研究

●ソフトウェアの効率的な品質向上に向けた数理モデルの活用に関する研究

●ソフトウェア開発活動に対する品質マネジメントの実践に関する研究

部局内貢献：●総合情報メディアセンター会議委員（2013年10月～）

●第2部会（情報資源・セキュリティ管理部会）委員（2011年7月～）

●第3部会（eラーニング推進部会）委員（2015年4月～）

●情報セキュリティ専門委員会委員（2014年4月～）

●修学支援システム検討専門委員（2015年9月～2016年2月）

学外審議会・委員会貢献：

●日本ソフトウェア科学会学会誌編集委員（2013年4月～）

●電子情報通信学会知能ソフトウェア工学研究

- 会専門委員 (2003年 5月～)
- 情報処理学会ソフトウェア工学研究会運営委員 (2006年 5月～)
- 情報処理学会論文誌ソフトウェア工学特集号編集委員 (2015年 2月～)
- 日本ソフトウェア科学会ソフトウェア工学の基礎ワークショップFOSE2016プログラム共同委員長
- 松山市農地台帳システム再構築事業業務委託総合評価委員

地域啓発活動・教育機関支援活動：

- 国立情報学研究所トップエスイー講師 (2008年 4月～)
- 四国医療技術専門学校非常勤講師 (2006年10月～)

- 講演実績：
- 招待講演「ソフトウェアメトリクスについて知っておきたいこと」(ソフトウェアテストシンポジウム2014 in 四国, 2014年11月14日)
 - 招待講演「メトリクス研究の一展開：人に依存するファクタの影響について」(ソフトウェア信頼性研究会第11回ワークショップ, 2015年11月14日)



仲道 雅輝
NAKAMICHI Masaki

生年月日：1971年 5月 8日

職名：講師

電話：089-927-8800

FAX：089-927-8805

E-mail：nakamichi.masaki.me@hime-u.ac.jp

- 職歴：
- 学校法人日本福祉大学事務職員 (1995年 4月～2011年 9月)
 - 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室助教 (2011年10月)
 - 愛媛大学総合情報メディアセンター兼教育・学生支援機構教育企画室助教 (2012年 7月)
 - 愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室長兼教育・学生支援機構教育企画室助教 (2013年 4月)
 - 同所属のまま講師となる (2013年12月)
- 学歴：
- 日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業 (1995年 3月)
 - 熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻修士課程修了 (2009年 3月)
- 学位：
- 1995年学士 (社会福祉学) (日本福祉大学)
 - 2009年修士 (教授システム学) (熊本大学)
- 免許・資格：
- eLC認定e-Learning Professional資格 (2009年)
 - e-learningマネージャー

- ラーニングデザイナー
- e-learningエキスパート
- e-learningコンサルタント
- コンテンツクリエイター
- 中学校社会科 1種免許状 (1995年)
- 高等学校教諭 1種免許状 (公民) (1995年)
- 養護教諭 1種免許状 (1995年)
- 図書館司書資格 (1999年)
- 日本スノーボード協会 (JSBA) 1級 (1996年)
- 中型自動車運転免許 (2011年)

所属学会：日本教育工学会, 教育システム情報学会, 日本教育メディア学会, 大学教育学会, 大学行政管理学会, 日本リメディアル教育学会, 初年次教育学会, 日本カツオ学会

専門分野：教授システム学, インストラクショナル・デザイン (ID/教育設計), 教育工学, e-learning, FD・SD

- 研究課題：
- インストラクショナル・デザイン (ID) 手法を活用した, 効果的な授業方法 (ICTを活用した授業改善・授業コンサルテーション) に関する研究
 - 高等教育機関における全学的なe-learning推進に関わる研究
 - FD・SD活動の普及要因に関わる研究
 - 学生能力開発における成長過程に関わる研究

- 組織開発・組織変革に関わる研究
- 部局内貢献：● 第3部会（eラーニング推進部会）部会長
- 教育デザイン室長（事業実施責任者）
- eラーニング推進専門委員会委員
- 学修ポートフォリオ開発等に関する専門委員会委員
- テニュアトラック能力開発室委員
- 著作権戦略検討委員会委員
- 愛媛大学教育改革促進事業（愛大GP）教育改革諮問委員会委員
- 愛媛大学「愛大GP事業」各GP運営委員
- メディアサポーターズ映像部顧問教員(SCV)
- 総合情報メディアセンター会議委員
- 総合情報メディアセンターコア会議委員
- 授業コンサルテーション
- 学外審議会・委員会貢献：
 - 文部科学省大学間連携共同推進事業運営委員「学士力養成のための共通教育システムを活用した主体的学びの促進プログラム」幹事会委員，2012～
 - 文部科学省国立大学改革強化推進事業企画委員「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」，共同実施モデル検討WG主査校，2012～
 - e-Knowledgeコンソーシアム四国企画委員，2013～
 - 日本教育工学会企画委員会委員，2013～
- 講演実績：● 学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～，愛媛大学（2015. 4. 6）. 講師
- キャリアの質を高めるポートフォリオ，愛媛県看護協会（2015. 7. 18）. 講師
- 効果的なeラーニングの活用方法～LMSの活用とポートフォリオ～，阿南工業専門高等学校（2014. 7. 31）. 講師
- 第24回授業デザインワークショップ，愛媛大学（2015. 7. 4-5）. 講師
- プロジェクト・マネジメント，愛媛大学，テニュアトラック制度研修（2015. 8. 18）. 講師
- コーディネート力養成講座，香川大学（2015. 8. 19）. 講師
- 学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～，愛媛大学（2015. 8. 26）. 講師
- プロジェクトを成功に導くマネジメントとデザイン思考，愛媛大学（2015. 8. 27）. 講師
- 第25回授業デザインワークショップ，愛媛大学（2015. 9. 1-3）. 講師
- 学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン（ID）入門～ARCS動機づけモデルの活用～，愛媛大学（2015. 9. 4）. 講師
- アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ，創価大学（2015. 9. 7-8）. 講師
- フォローアップ研修：アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ II，創価大学（2015. 9. 9）. 講師
- 効果的なeラーニングの活用方法（超入門編），愛媛大学（2015. 9. 11）. 講師
- 学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン（ID）入門～ARCS動機づけモデルの活用～，四国大学（2015. 9. 14）. 講師
- 学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～，高知学園短期大学（2015. 9. 15）. 講師
- eラーニング入門～きめ細やかな学習支援を実現しよう～，愛媛大学（2015. 9. 18）. 講師
- 学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～，環太平洋大学・短期大学部（2015. 9. 30）. 講師
- スタッフポートフォリオ作成ワークショップ，京都コンソーシアム，愛媛大学教職員能力開発拠点事業（2015. 10. 4-5）. 講師
- プロジェクト・イノベーション実践，愛媛大学（2015. 10. 14-15）. 講師
- インストラクショナル・デザイン（ID）教

- 育設計)を活用した職員による企画立案マネジメント. 徳島大学 (2015. 10. 21). 講師
- 理論に基づく教育技法-授業改善に向けて-ワークショップ. 愛媛県立医療技術大学. 愛媛県看護教員継続研修 (2015. 12. 22). 講師
- 学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法. 愛媛大学 (2016. 1. 14). 講師
- 学生の主体性と社会性を高めるための教育技法向上におけるプロジェクト-分析①-コンサルティング. 高知学園短期大学看護学科 (2016. 2. 10). 講師
- 学生の主体性と社会性を高めるための教育技法向上におけるプロジェクト-分析②-コンサルティング. 高知学園短期大学看護学科 (2016. 3. 1). 講師
- Moodleを用いたテスト・ディスカッションの効果的な活用と設計 (応用編). 愛媛大学 (2016. 3. 11). 講師

- 学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計~課題分析図の活用~. 四国大学看護学部看護学科 (2016. 3. 24). 講師
- アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ. 創価大学看護学部 (2016. 3. 26-27). 講師
- アクティブラーニングを推進するための授業設計ワークショップ. 創価大学文学部 (2016. 3. 28-29). 講師
- 「次世代リーダー養成研修 (年4回:12日間)」講師

地域啓発活動・教育機関支援活動:

- 平成27年度基本研修第7部・新任副課長級研修. 新居浜市役所 (2015. 4. 16). 講師
- 私の目指す職員像~ポートフォリオ~. 平成27年度基本研修第1部・新人職員研修. 新居浜市役所 (2015. 9. 17). 講師



佐々木 隆志

SASAKI Takashi

生年月日: 1974年3月16日

職名: 助教(兼)

電話: 089-927-8354

FAX: 089-927-8805

E-mail: sasaki@cite.ehime-u.ac.jp

- 職歴:
- 京都科学技術専門学校 (京都府京都市) 非常勤講師 (2001年4月~2003年3月)
 - 京都コンピュータ学院 (京都府京都市) 非常勤講師 (2004年4月~2005年3月)
 - 国立国会図書館関西館 (京都府精華町) 非常勤調査員 (2004年6月~2007年2月)
 - 京都大学大学院情報学研究所産学官連携研究員 (2004年10月~2005年3月)
 - 奈良産業大学 (奈良県生駒郡) 情報学部非常勤講師 (2005年4月~2007年2月)
 - 京都大学大学院情報学研究所産学官連携研究員 (2005年12月~2006年3月)

- 京都大学大学院情報学研究所産学官連携研究員 (2006年12月~2007年2月)
- 愛媛大学総合情報メディアセンター助手 (2007年2月)
- 愛媛大学経営情報分析室助教 (2013年10月)

- 学歴:
- 京都大学理学部卒業 (物理学専攻) (1998年3月)
 - 奈良先端科学技術大学院大学情報学研究所博士前期課程修了 (2000年3月)
 - 京都大学大学院情報学研究所博士後期課程単位取得退学 (2004年3月)
- 学位: 2000年修士 (工学) (奈良先端科学技術大学院大学)

所属学会: 情報処理学会, IEEE

専門分野: 情報ネットワーク, 自律分散協調型システム, モバイルコンピューティング, e-Learning

研究課題: e-Learningシステムのデザインと効果分析, 自律分散ネットワーク, 大規模分散ストレージ及びデジタルアーカイブ, 自律分散音響測位シ

テム

- 部局内貢献：●EPOCH@まつやま実行委員（2007年度～）
- eラーニング推進検討ワーキンググループ（2009年度～）
- 学外審議会・委員会活動：
- e-Knowledgeコンソーシアム四国企画委員
 - システム専門委員（2008年～）
 - eまつやま最先端技術研究会理事（2010年度～）
 - 情報処理学会四国支部評議員（2010年度～）
 - Treasurer of IEEE Shikoku Section（2011年～）
 - 国立国会図書館デジタルアーカイブシステム技術審査委員
 - 日本Androidの会四国支部
 - 愛媛情報セキュリティ研究会（通称セキュリティみかん）
 - オープンセミナー愛媛実行委員
 - オープンソースカンファレンス愛媛実行委員
 - 情報セキュリティシンポジウム道後実行委員
 - Code for DOGO委員（2015年3月～）

(1) 研究活動

【著 書】

野口一人

- 情報リテラシー入門2016年版」, 野口一人, 分担執筆 第7章 情報利活用: プレゼンテーション, 2016年3月

仲道 雅輝

- 「大学におけるeラーニング活用実践集-大学における学習支援への挑戦2-」, 仲道雅輝, 分担執筆: 仲道雅輝(3章6節, 11章概説, 11章1節), ナカニシヤ出版, (共著)監修: 大学eラーニング協議会・日本リメディアル教育学会, 編者: 岡本敏雄・穂屋下茂・望月雅光・小松川浩 (2015)
- 「教育評価との付き合い方-これからの教師のために-」, (共著) 関田一彦・渡辺貴裕・仲道雅輝, さくら社出版, (2015)
- 愛媛大学「研究室からこんにちは!」(2015), アトラス出版, (共著) 仲道雅輝

【論 文 (過去5年間)】

中川 祐治

紀要・抄録

- 黒目中心座標の高速検出とSaccadeの検出頻度, 佐々木良・中川祐治, 平成27年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.193, 2015.
- 画像認識による玉葱頭部の判別, 吉本祐真・中川祐治, 平成27年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.194, 2015.
- 画像処理による玉葱の根の判定, 吉本祐真・中川祐治, 平成26年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.210, 2014.
- 全方向微分フィルタによる黒目中心検出の精度評価, 佐々木良・中川祐治, 平成26年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.211, 2014.
- タブレットと家庭内PCによるHome Security System, 池田将隆・佐々木良・中川祐治, 平成26年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.212, 2014.
- 全方向微分フィルタによる黒目の検出, 宮内泰明・中川祐治, 平成25年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.232, 2013.
- 受講者観察システムにおけるSaccade有無の検出, 中北真偉・中川祐治, 電子情報通信学会技術研究報告 Vol.112, No.300, pp.67-71, 2012.
- Androidタブレットによるガイドシステムの構築, 宮内泰明・中川祐治, 電子情報通信学会技術研究報告Vol.112, No.225, pp.41-45, 2012.
- Androidタブレットによるガイドシステムの構築, 宮内泰明・中川祐治, 平成24年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.236, 2012.
- 受講者観察システムにおけるSaccadeの検出, 中北真偉・中川祐治, 平成24年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.237, 2012.
- 背景領域削除に対するピンぼけ度合いの影響評価, 吉本祐真・中川祐治, 平成24年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.238, 2012.
- GPUを導入した受講者観察システムの開発, 栃原康介・越智勇太・中川祐治, 平成23年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.19, 2011.
- Android端末によるガイドシステムの構築, 中北真偉・宮内泰明・中川祐治, 平成23年度電気関係学会四国支部連合大会論文集, p.20, 2011.

野口 一人

原著論文

- Development of Terabit-scale Compact Hierarchical Optical Cross-connect System Using Planar Device Integration, O. Moriwaki, K. Noguchi, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, H. Hasegawa, M. Okuno, Y. Ohmori,

IEEE Journal of Lightwave Technology, Vol. 29, No. 4, pp. 449-455, 2011.

- Multi-hop Signal Transmission Experiments Employing PLC-based Hierarchical Optical Cross-connect System, O. Moriwaki, K. Noguchi, H. Takahashi, T. Sakamoto, K. Sato, H. Hasegawa, M. Okuno, Y. Ohmori, IEEE Photonics Technology Letters, Vol. 22, No. 21, pp. 1586-1588, 2011.

国際学会発表論文

- Remote Seminar Trials of Fetal Echocardiography in Japan, K. Noguchi, The 7th Asia Telemedicine Symposium, Dec. 2013.
- Remote Seminar Trial of Fetal Echocardiography over SINET4, K. Noguchi, M. Kawataki, E. Abe, H. Uose, and S. Urushidani, The 6th Asia Telemedicine Symposium, Dec. 2012.
- High-speed Reliable Transmission System for Super Hi-vision Transmission over Global IP Network, Ogawara, M. Nomura, T. Fujii, K. Noguchi, T. Yamaguchi, K. Kawazoe, Y. Shishikui, Y. Nojiri, IBC2011, Cutting Edge Technologies II - Signal Processing & Imaging, 2011.
- Crosstalk calculation technique for implementing on simulator of photonic network, T. Sakai, D. Hanawa, K. Noguchi, T. Sakamoto, K. Oguchi, TSP2011-34th International Conference on Telecommunications and Signal Processing, 2011.
- Compact 4×4 Optical Cross-connect with Add/Drop Ports using PLC Technology, K. Noguchi, O. Moriwaki, H. Takahashi, T. Salamoto, K. Sato, M. Okuno, OFC/NFOEC 2011, NThB2, 2011.

紀要・抄録・報告

- 学術ネットワーク (SINET) を使った胎児心エコーセミナーの報告, 川瀧元良・清水周次・安德恭彰・工藤孔梨子・波々伯部佳子・野口一人・魚瀬尚朗, 第19階日本遠隔医療学会学術大会, A-1-3, p. 16, 2015.
- [特別講演] 超広帯域映像伝送技術の研究開発, 野口一人, 映像情報メディア学会技術報告, No. 35, BCT 2014-79, 2014.
- 研究教育ネットワークを使った遠隔医療実験, 野口一人, 電子情報通信学会誌, Vol. 94, No. 3, pp. 192-198, 2011.
- グローバルな研究教育用IPネットワークを用いたスーパーハイビジョン国際伝送実験, 野尻祐司・井口和久・野口一人・藤井竜也・小河原成哲, 放送技術, Vol. 64, No. 6, pp. 135-142, 2011.
- GEMnet 2 を使ったスーパーハイビジョン国際伝送実験, 野口一人・山口高弘・川添雄彦・鹿喰善明・野尻裕司, NTT技術ジャーナル, Vol. 23, No. 3, pp. 84-87, 2011.

川原 稔

原著論文

- Lines of Comments as a Noteworthy Metric for Analyzing Fault-Proneness in Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, IEICE Transaction on Information and Systems, Vol. E98-D, No. 12, pp. 2218-2228, 2015.
- 変数名とスコープの長さ及びコメントに着目したフォールト潜在性に関する定量的調査, 阿萬裕久・天寄聡介・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2015論文集, pp. 69-76, 2015.
- テストケースのクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テストの効率化, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人・佐々木隆志・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 32, No. 3, pp. 111-125, 2015.
- 印刷文字を閲覧する際の視条件評価チャートの提案, 高橋信行・川原稔, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 14, pp. 58-67, 2014.
- オープンソース開発におけるコードクローン含有率の収束傾向に関する調査, 本田暁・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会論文誌D, Vol. J97-D, No. 7, pp. 1213-1215, 2014.
- Group replica caching scheme for optical grid networks, Optical Switching and Networking 10, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Vol. 10, pp. 223-232, 2013.
- 視覚特性評価に基づいた電子黒板への教材提示法, 高橋信行・川原稔・佐々木隆志・菊田知則, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 12, pp. 42-54, 2012.
- Contention resolution considering multicast traffic in optically burst-switched WDM networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Photonic Network Communications, Springer, Vol. 23, No. 2, pp. 157-165, 2012.

- サイクル形成確率と受信信号強度によるハイブリッド測距法, 櫻田真士・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会和文論文誌, Vol. J95-B, No. 02, pp.229-237, 2012.
- Parallel and multi-wavelength downloading in optical grid networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, Photonic Network Communications, Springer, Vol. 22, No. 3, pp. 245-253, 2011.

国際学会発表論文

- Empirical Analysis of Change-Proneness in Methods Having Local Variables with Long Names and Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 9th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2015), pp.50-53, 2015.
- Predicting Fault-Prone Methods Focusing on the Combination of Inner Comments and Documentation Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA 2015 and DSS 2015, pp.3-4, 2015.
- Empirical Analysis of Fault-proneness in Methods by Focusing on their Comment Lines, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 21st Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2014), Vol. 2, pp. 51-56, 2014.
- Empirical analysis of comments and fault-proneness in methods: can comments point to faulty methods?, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 8th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2014), p. 63, 2014.
- Mutistage Growth Model for Code Change Events in Open Source Software Development: An Example using Development of Nagios, Hirohisa Aman・Akiko Yamashita・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 2014 40th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2014), pp. 207-212, 2014.
- Replica caching scheme according to status of neighboring nodes in optical grid networks, Kouji Hirata and Minoru Kawahara, the 2nd IFIP International Conference on Network of the Future (NoF 2011), CD-ROM, 2011.

紀要・抄録・報告

- オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ウインターワークショップ2016・イン・逗子 論文集, pp.41-42, 2016.
- プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用, 加藤健太・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 115, No. 421, pp.1-6, 2016.
- 共変更の新しいさと開発者の貢献度合いに着目したロジカルカップリングの評価——ソースコード修正漏れの自動検出に向けて——, 尾田祐之介・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会研究報告ソフトウェア工学, Vol. 2015-SE-190, No. 17, pp.1-8, 2015.
- 開発者の違いを考慮したコメント記述量の評価とバグ予測への応用, 中野貴史・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第11回ワークショップ論文集, オンライン, 2015.
- オープンソース開発における開発者ごとのコメント記述の傾向に関する調査, 中野貴史・佐々木隆志・川原稔・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 115, No. 153, pp.125-130, 2015.
- オープンソース開発におけるコーディング規約違反の発生と解消の動向に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第10回ワークショップ論文集, CD-ROM, 2014.
- オープンソース開発でのコード修正におけるコーディング規約違反の変化に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, Vol. 2014-SE-186, No. 3, pp.1-8, 2014.
- Webデザインが視覚障がい者のユーザビリティに与える影響についての一実証報告, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会 教育工学研究会 信学技報ET2011-43, Vol. 111, No. 213, pp.41-46, 2011.
- 光バースト交換網におけるマルチキャストを考慮した競合回避手法, 平田孝志・川原稔, 電子情報通信学会ネットワークシステム研究会 信学技報NS2010-166, Vol. 110, No. 448, pp.19-24, 2011.

特許

- 特願2015-15372「視野計測方法、視野計測装置および視力検査視標」(2015年8月3日出願)

和田 武

原著論文

- Kukaiデータベースからの情報抽出, 和田武, 学術情報処理研究, No. 18, pp. 37-44, 2014.
- 和田武, Haiku入門システム構築に向けた構文解析, 教育情報研究, Vol. 30, No. 1, pp. 37-43, 2014.
- 英語俳句投句支援システム構築に向けたメーリングリストからの特徴抽出, 和田武, 大学情報システム環境研究, Vol. 16, pp. 70-77, 2013.
- CMS小テスト問題分析による授業改善の試み, 和田武, 学術情報処理研究, pp. 167-173, No. 16, 2012.
- 研究開発用ネットワークを利活用した遠隔合唱実験, 和田武・井上洋一・田邊隆・永井明・三原義樹, 教育情報研究, Vol. 27, No. 2, pp. 23-29, 2011.
- 基礎数学・基礎物理学リメディアル教材の製作, 和田武・矢野忠, 大学情報システム環境研究, Vol. 14, pp. 98-104, 2011.

紀要・抄録・報告

- 愛媛における学術情報ネットワークの黎明期, 松山大学論集, 第27巻第4-2号, 2015.
- 心が動く, 心がつながる, 生きた音楽を求めて - 子どもから大人へ, 楽しく, 感動する音楽活動の場の創造 -, 楠俊明・石川貴恵・来嶋英生・井上洋一・田邊隆・和田武, 愛媛大学教育学部初等教育研究紀要, Vol. 44, pp. 133-144, 2011.
- 心が動く, 心がつながる, 生きた音楽を求めて - 子どもから大人へ, 美しく感動する音楽活動の場の創造 -, 愛媛大学教育学部附属中学校研究紀要, Vol. 63, pp. 101-108, 2011.

阿萬 裕久

原著論文

- Lines of Comments as a Noteworthy Metric for Analyzing Fault-Proneness in Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E98-D, No. 12, pp. 2218-2228, 2015.
- 変数名とスコープの長さ及びコメントに着目したフォールト潜在性に関する定量的調査, 阿萬裕久・天寄聡介・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2015 論文集, pp. 69-76, 2015.
- テストケースのクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テストの効率化, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人・佐々木隆志・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 32, No. 3, pp. 111-125, 2015.
- 大規模OSS開発における不具合修正時間の短縮化を目的としたバグトリアージ手法, 柏祐太郎・大平雅雄・阿萬裕久・亀井靖高, 情報処理学会論文誌, Vol. 56, No. 2, pp. 669-681, 2015.
- Feature Envyとコメント文の関連性に関する考察, 藤井里沙・天寄聡介・阿萬裕久・横川智教, ソフトウェア工学の基礎XXI, pp. 69-74, 近代科学社, 2014.
- テストケースの実行履歴に基づいたクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テスト計画手法の提案, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人, ソフトウェア工学の基礎XXI, pp. 231-240, 近代科学社, 2014.
- 0-1 整数計画問題を利用した欠陥検出向けテストパターン選択法, 志田洋・樋上喜信・阿萬裕久・高橋寛・ケーワルサルージャ, 日本信頼性学会誌, Vol. 36, No. 8, pp. 501-510, 2014.
- オープンソース開発におけるコードクローン含有率の収束傾向に関する調査, 本田暁・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会論文誌 D, Vol. J97-D, No. 7, pp. 1213-1215, 2014.
- テストの実施履歴とテスト項目間の関連情報を利用した効果的なテスト削減方法の提案と評価, 小笠原秀人・佐々木愛美・中野隆司・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2014 論文集, pp. 147-151, 2014.
- 0-1 計画モデルを用いたコードレビュー計画法におけるフィルタリングとその効果, 井上慎也・阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎XX, pp. 251-256, 2013.
- 0-1 計画モデルを用いたコードレビュー計画法の有効性に関する実証的考察, 井上慎也・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2013 論文集, オンライン, 2013.
- 数理計画モデルに基づいた効果的なテスト選択手法の提案と実践, 小笠原秀人・佐々木愛美・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2013 論文集, オンライン, 2013.

- ソースコード改変におけるコメント文の相対的な変化量に着目したフォールト潜在性の分析, 浅野遼平・阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎XIX, pp. 45-50, 2012.
- A Feature Analysis of Co-changed Code Clone by Using Clone Metrics, Myrizki Sandhi Yudha・Ryohei Asano・Hirohisa Aman, IEICE Transactions on Fundamentals, Vol. E95-A, No. 9, pp. 1498-1500, 2012.
- 工程別の欠陥埋め込み件数の予測, 衣旗宏和・野中誠・阿萬裕久, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2012 論文集, オンライン, 2012.
- 論理的制約条件付き 0-1 計画モデルを用いた重点レビュー計画法, 阿萬裕久, コンピュータソフトウェア, Vol. 29, No. 3, pp. 115-120, 2012.
- ソースファイルにおけるコメントの増加傾向に着目したフォールト潜在予測, 浅野遼平・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2012 論文集, オンライン, 2012.
- オープンソースソフトウェアにおけるコメント記述およびコメントアウトとフォールト潜在との関係に関する定量分析, 阿萬裕久, 情報処理学会論文誌, Vol. 53, No. 2, pp. 612-621, 2012.
- 論理的制約条件付 0-1 計画問題として定式化した重点レビュー対象モジュールの選択, 阿萬裕久, ソフトウェア工学の基礎XVIII, pp. 197-206, 近代科学社, 2011.
- ソフトウェアメトリクスとデータ分析の基礎, 阿萬裕久・野中誠・水野修, コンピュータソフトウェア, Vol. 28, No. 3, pp. 12-28, 2011.
- コードクローンの長さと同変更改の起こりやすさとの関係に関する解析, Myrizki Sandhi Yudha・阿萬裕久, ソフトウェア・シンポジウム 2011 論文集, オンライン, 2011.

国際学会発表論文

- Empirical Analysis of Change-Proneness in Methods Having Local Variables with Long Names and Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 9th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2015), pp. 50-53, 2015.
- Predicting Fault-Prone Methods Focusing on the Combination of Inner Comments and Documentation Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA 2015 and DSS 2015, pp. 3-4, 2015.
- A Proposal of Maintenance Cost Model of Track Circuits, Hiroshi Shida・Hirofumi Oogushi・Yoshinobu Higami・Hirohisa Aman・Hiroshi Takahashi, Proc. 9th International Conference on Mathematical Methods in Reliability: Theory, Methods and Applications (MMR2015), pp. 408-415, 2015.
- Empirical Analysis of Fault-proneness in Methods by Focusing on their Comment Lines, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 21st Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2014), Vol. 2, pp. 51-56, 2014.
- Empirical analysis of comments and fault-proneness in methods: can comments point to faulty methods?, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 8th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2014), p. 63, 2014.
- How Developers Comment on Code Smell? An Empirical Analysis on Feature Envy, Sousuke Amasaki・Tomoyuki Yokogawa・Risa Fujii・Hirohisa Aman, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA 2014 and DSD 2014, pp. 1-2, 2014.
- Mutistage Growth Model for Code Change Events in Open Source Software Development: An Example using Development of Nagios, Hirohisa Aman・Akiko Yamashita・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 2014 40th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2014), pp. 207-212, 2014.
- Application of the test select method using mathematical programming model, Hideto OGASAWARA・Manami SASAKI・Takashi NAKANO・Hirohisa AMAN, Proc. 21st European System, Software and Service Process Improvement and Innovation, 2014.
- 0-1 Programming Model-Based Method for Planning Code Review using Bug Fix History, Hirohisa Aman, Proc. 5th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2013), pp. 37-42, 2013.
- Application of the 0-1 Programming Model for Cost-Effective Regression Test, Hirohisa Aman・Manami

- Sasaki・Kei Kureishi・Hideto Ogasawara, Proc. 37th IEEE Annual International Computer Software & Applications Conference (COMPSAC2013), pp.721-722, 2013.
- An Empirical Analysis of the Impact of Comment Statements on Fault-Proneness of Small-Size Module, Hirohisa Aman, Proc. 19th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2012), pp.362-367, 2012.
 - An Empirical Analysis on Fault-proneness of Well-Commented Modules, Hirohisa Aman, Proc. 4th International Workshop on Empirical Software Engineering in Practice (IWESEP2012), pp.3-9, 2012.
 - An Analysis of Co-changeable Code Clone by using Clone Metrics, Myrizki Sandhi YUDHA・Ryohei ASANO・Hirohisa AMAN, SupplementalProc. IEEE 22nd International Symposium on Software Reliability Engineering (ISSRE2011), CD-ROM, 2011.
 - A Proposal of NHPP-Based Method for Predicting Code Change in Open Source Development, Hirohisa Aman, Proc. The Joint Conference of the 21st International Workshop on Software Measurement and the 6th International Conference on Software Process and Product Measurement (IWSM-MENSURA2011), pp.38-47, 2011.

紀要・抄録・報告

- オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ウインターワークショップ2016・イン・逗子 論文集, pp.41-42, 2016.
- プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用, 加藤健太・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.115, No.421, pp.1-6, 2016.
- 共変更の新しさと開発者の貢献度合いに着目したロジカルカップリングの評価——ソースコード修正漏れの自動検出に向けて——, 尾田祐之介・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会研究報告ソフトウェア工学, Vol.2015-SE-190, No.17, pp.1-8, 2015.
- 開発者の違いを考慮したコメント記述量の評価とバグ予測への応用, 中野貴史・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第11回ワークショップ論文集, オンライン, 2015.
- オープンソース開発における開発者ごとのコメント記述の傾向に関する調査, 中野貴史・佐々木隆志・川原稔・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol.115, No.153, pp.125-130, 2015.
- オープンソース開発におけるコーディング規約違反の発生と解消の動向に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会 第10回ワークショップ論文集, CD-ROM, 2014.
- オープンソース開発でのコード修正におけるコーディング規約違反の変化に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, Vol.2014-SE-186, No.3, pp.1-8, 2014.
- オープンソース開発におけるソースコード変更予測に向けた成長曲線モデルの多段的利用について, 山下彰子・阿萬裕久, 情報処理学会ウインターワークショップ2014・イン・大洗論文集, pp.93-94, 2014.
- コメントの記述位置の違いに着目したフォールト潜在性の分析——メソッドの前に書かれるコメントとメソッドの中に書かれるコメント——, 阿萬裕久, 情報処理学会ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2013併設ワークショップ「開発マネジメントにおける産学の問題共有と連携強化」予稿集, オンライン, 2013.
- 数理計画モデルを用いたコードレビュー計画に対するフィルタリングの効果について, 井上慎也・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol.113, No.159, SS2013-31, pp.109-114, 2013.
- 小規模プログラムにおけるコメント行数とフォールト潜在性の関係に関する調査, 阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol.113, No.24, SS2013-12, pp.67-72, 2013.
- 0-1 計画モデルを利用したメソッド単位でのコードレビュー計画について, 井上慎也・阿萬裕久, ウインターワークショップ2013・イン・那須論文集, pp.27-28, 2013.
- 0-1 整数計画法を用いた不具合修正タスクの割当支援, 柏祐太郎・大平雅雄・阿萬裕久, ウインターワークショップ2013・イン・那須論文集, pp.19-20, 2013.
- コメント記述量の増加傾向とフォールト潜在との関係に関する定量分析, 浅野遼平・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol.112, No.164, SS2012-28, pp.109-114, 2012.
- Fault-proneモジュール予測に対するコメント記述量の効果に関する考察, 阿萬裕久, ウインターワークショップ2012・イン・琵琶湖論文集, pp.45-46, 2012.
- コード間の依存関係及びクローン関係に着目したコード変更の生存時間解析, 浅野遼平・阿萬裕久, 電子情報

通信学会技術報告, Vol. 111, No. 211, pp. 67-72, 2011.

- Fault-Proneモジュール予測を利用した効率的なレビュー計画及びテスト計画について, 阿萬裕久, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2011併設ワークショップ, オンライン, 2011.
- オープンソースソフトウェアにおけるコード変更事象のモデル化に関する考察, 浅野遼平・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術報告, Vol. 111, No. 169, pp. 19-24, 2011.
- ソースコード変更事象の数理モデル化と予測について, 阿萬裕久, ウインターワークショップ2011・イン・修善寺論文集, pp. 109-110, 2011.

仲道 雅輝

原著論文

- 「初年次教育科目「日本語リテラシー入門」の実践とその成果」, 秋山英治・仲道雅輝, 愛媛大学教育・学生支援機構大学教育実践ジャーナル第13号, pp. 33-41, 2015. 3.
- 「インストラクショナル・デザイン (ID/教育設計) を活用した対面授業からブレンディッドラーニングへの再設計支援」, 仲道雅輝・秋山英治・清水史, 愛媛大学教育・学生支援機構大学教育実践ジャーナル第12号: pp. 47-54, 2014. 3.
- 「『科目ガイダンスVOD』を基軸としたFD-全学的なe-learning推進を実現する教員の意識改革 -」, 仲道雅輝・松葉龍一・江川良裕・大森不二雄・鈴木克明, 日本教育工学会論文誌33 (suppl.) 25-28.

国際学会発表論文

- 「Promotion of University-Wide e-learning as Part of Faculty Development Activities」, Nakamichi, M., Sato, S. and Suzuki, K., A paper presented at ICoME (International Conference on Media in Education), Beijing, china. 2012. 8. <http://icome.bnu.edu.cn/content/full-paper> (参照日2013. 04. 01).

紀要・抄録・報告

- 「eラーニングを用いたブレンド型授業におけるTA・SAの活用と成果」, 秋山英治・仲道雅輝, 大学教育学会第37回大会発表要旨集録 (長崎大学), 120-121, 2015. 6. 7
- 「全学的なeラーニング普及推進の方策と成果」, 仲道雅輝・根本淳子・鈴木克明, 大学教育学会第37回大会発表要旨集録 (長崎大学), 150-151, 2015. 6. 7
- 「初年次教育から専門教育への接続」, 秋山英治・仲道雅輝, 日本リメディアル教育学会全国大会 (北星学園大学) 発表論文集, 64-65, 2015. 8. 29
- 「ブレイスメントテストの実施が学ぶ姿勢の形成と主体性に及ぼす影響」, 仲道雅輝・秋山英治・都築和宏, 日本リメディアル教育学会全国大会 (北星学園大学) 発表論文集, 150-151, 2015. 8. 29
- 「四国国立5大学における共通シラバスと履修プロセスの開発」, 吉田明恵・仲道雅輝・根本淳子・田中寿郎・林敏浩・村井礼・金西計英・宮下晃一・立川明, 教育システム情報学会全国大会 (徳島大学) 発表論文集, 293-294, 2015. 9. 4
- 「高大連携におけるeラーニングの導入について」, 秋山英治・仲道雅輝, 初年次教育学会全国大会 (明星大学) 発表論文集, 154-155, 2015. 9. 4
- 「新たな教員研修モデル開発のためのFDワークショップ実践報告」, 加地真弥・根本淳子・仲道雅輝・小林直人・関田一彦・望月雅光, 日本教育工学会第31回全国大会 (東京電気大学) 発表論文集, 173-174, 2015. 9. 21
- 「大学におけるe-Learning活用支援が授業改善に対する教員の認識に及ぼす影響 - 支援体制の充実に向けたアンケート結果から -」, 仲道雅輝・根本淳子・鈴木克明, 日本教育工学会第31回全国大会 (東京電気大学) 発表論文集, 601-602, 2015. 9. 22
- 「四国地区5国立大学連携におけるe-Learning教育を円滑運営するための著作権処理の提案」, 村井礼・金西計英・高橋暁子・竹口幸志・田中寿郎・根本淳子・仲道雅輝・三好康夫・林敏浩, 教育システム情報学会第40回全国大会 (徳島大学) 発表論文集, 297-298, 2015. 9. 2
- 「非同期遠隔型オンライン学習における個別化された学習ポータルサイトの構築に関する検討」, 高橋暁子・根本淳子・竹岡篤永・仲道雅輝, 情報処理学会CLE研究会, 研究報告コンピュータと教育 (CE), 2015-CE-132 巻, 36号, 1-4, 2015. 12. 6
- 「症例ベースのeラーニング教材を使用した卒前・卒後共通シミュレーション医療教育プログラムの開発」, 山脇孝・仲道雅輝・根本淳子・山下奈緒子・福田里沙・寺尾奈歩子・小西円, 第7回日本医療教授システム学会総会 (東京大学) ポスター発表P-A4, プログラム抄録集, p. 61, 2015. 3. 5

- 「eラーニングにおけるTAとSAの活用について」, 秋山英治・仲道雅輝, 大学eラーニング協議会合同フォーラム2014(創価大学)発表論文集, pp.15-16, 2015. 2. 21
- 「eラーニングと日本語の教育」, 秋山英治・仲道雅輝, 大学eラーニング協議会合同フォーラム2013(佐賀大学)発表論文集, pp.15-18, 2014. 3. 7
- 「大学でのe-Learning普及推進の取り組みによる効果」, 仲道雅輝・根本淳子・鈴木克明, 日本教育工学会第30回全国大会(岐阜大学)発表論文集, pp.611-612, 2014. 9. 20
- 「教職協働を軸とした教育デザイン室の設置と運営」, 仲道雅輝・都築和宏・瀧本笑子, 大学行政管理学会大18回定期総会・研修集会(東北学院大学)発表論文集, pp.129-130, 2014. 9. 7
- 「SDC養成講座～その実践と検証～」, 清水栄子・仲道雅輝・吉田一恵・秦敬治・米澤慎二, 大学行政管理学会大18回定期総会・研修集会(東北学院大学)発表論文集, pp.53-54, 2014. 9. 7
- 「学生の解答意欲を維持するプレイズメントテスト改善の試み」, 仲道雅輝・都築和宏・三神早耶・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎, 日本リメディアル教育学会全国大会(東京電機大学)発表論文集, pp.138-139, 2014. 8. 21
- 「初年次教育におけるブレンド型授業の実践とその成果～学生の属性に注目して～」, 秋山英治・仲道雅輝, 日本リメディアル教育学会全国大会(東京電機大学)発表論文集, pp.118-119, 2014. 8. 22
- 「ブレンディッドラーニングによる日本語リテラシー教育の展開」, 秋山英治・仲道雅輝, 大学教育学会第36回全国大会(名古屋大学)発表論文集, pp.208-209, 2014. 6. 1
- 「SDの実践的指導者(SDC)養成プログラムの開発～大学教職員能力開発拠点の取り組みから～」, 阿部光伸・仲道雅輝, 大学教育学会第36回全国大会(名古屋大学)発表論文集, pp.146-147, 2014. 6. 1
- 「学生リーダーシップに関する評価指標策定に関する考察」, 秦敬治・鈴木理絵・泉谷道子・津曲陽子・林真輝・山内一祥・岸岡洋介・仲道雅輝・山崎その, 大学教育学会第35回全国大会講演論文集, pp.282-283, 2013.
- 「学生リーダーシップ養成における学びのサイクルに関する考察」, 泉谷道子・山内一祥・阿部光伸・林真輝・鈴木理絵・仲道雅輝・津曲陽子・岸岡洋介・秦敬治, 大学教育学会第35回全国大会講演論文集, pp.284-285, 2013.
- 「プレイズメントテスト実施方法に関する一考察」, 仲道雅輝・瀧本笑子・平田浩一・藤岡克則・秋山英治・庭崎隆・山崎哲司・田中寿郎, 日本リメディアル教育学会第9回全国大会発表予稿集, pp.6-7, 2013.
- 「教職員能力開発拠点の取組－SD講師・SDコーディネーター(SDC)の養成(事例報告)－」, 米澤慎二・仲道雅輝・清水栄子, 大学行政管理学会第17回定期総会・研究集会・資料集, pp.9-50, 2013.
- 「大学間連携SDを活用した次世代リーダー養成システム～SPOD-SDの事例から～」, 秦敬治・阿部光伸・大竹奈津子・仲道雅輝・米澤慎二・石原卓也, 大学行政管理学会第17回定期総会・研究集会・資料集, pp.89-90, 2013.
- 「授業設計および教材作成支援による大学でのe-learning普及推進の取り組み」, 仲道雅輝・鈴木克明, 日本教育工学会第29回全国大会講演論文集, pp.805-806. P2a-1-404-07, 2013.
- 「eラーニングと日本語の教育」, 秋山英治, 仲道雅輝, 大学eラーニング協議会合同フォーラム予稿集, pp.15-18, 2013.
- 「Promotion of University-Wide e-learning as Part of Faculty Development Activities」, Masaki Nakamichi, 熊本大学国際奨学事業報告書, pp.159-160, 2013.
- 「大学教育の未来を支えるeラーニングの可能性／愛媛大学のeラーニング推進の取組～教育デザイン室の設置～」, 仲道雅輝, [シンポジウム], 国立大学改革強化推進事業第1回シンポジウム, 四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業, 愛媛大学, 2013.
- 「国立大学法人におけるe-learning推進の取り組み～私立大学での実践成果から～」, 仲道雅輝, 熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告, Vol.2, No.1, pp.23-26, 2012.
- 「全学的なe-learning普及施策を踏まえた教員のe-learningへの意識変容に関わる研究～教員ヒアリング結果より～」, 仲道雅輝・佐藤慎一・鈴木克明, 日本教育メディア学会第19回年次大会講演論文集, pp.55-56, 2012.
- 「パリッシュの学習者個人に係わる要因を活用した初年次教育(新入生セミナー)の効果検証」, 仲道雅輝・鈴木克明, 日本教育工学会第28回全国大会講演論文集, pp.279-280, 2012.
- 「愛媛大学「FDカレンダー」によるFD活動の普及に関する取組～学習動機を高める6つのコツ～」, 仲道雅輝, 熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会研究報告, Vol.1, No.1, pp.21-24, 2011.

佐々木 隆志

原著論文

- Lines of Comments as a Noteworthy Metric for Analyzing Fault-Proneness in Methods, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, IEICE Transactions on Information and Systems, Vol. E98-D, No. 12, pp. 2218-2228, 2015.
- 変数名とスコープの長さ及びコメントに着目したフォールト潜在性に関する定量的調査, 阿萬裕久・天寄聡介・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2015論文集, pp. 69-76, 2015.
- テストケースのクラスタリングと 0-1 計画モデルを組み合わせた回帰テストの効率化, 阿萬裕久・佐々木愛美・中野隆司・小笠原秀人・佐々木隆志・川原稔, コンピュータソフトウェア, Vol. 32, No. 3, pp. 111-125, 2015.
- 大規模OSS開発における不具合修正時間の短縮化を目的としたバグトリアージ手法, 柏祐太郎・大平雅雄・阿萬裕久・亀井靖高, 情報処理学会論文誌, Vol. 56, No. 2, pp. 669-681, 2015.
- オープンソース開発におけるコードクローン含有率の収束傾向に関する調査, 本田暁・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会論文誌D, Vol. J97-D, No. 7, pp. 1213-1215, 2014.
- 視覚特性評価に基づいた電子黒板への教材提示法, 高橋信行・川原稔・佐々木隆志・苅田知則, 日本ロービジョン学会誌, Vol. 12, pp. 42-54, 2012.
- サイクル形成確率と受信信号強度によるハイブリッド測距法, 櫻田真士・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会和文論文誌, Vol. J95-B, No. 02, pp. 229-237, 2012.

紀要・抄録・報告

- オープンソース開発におけるコーディング規約違反の発生と解消の動向に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会第10回ワークショップ論文集, CD-ROM, 2014.
- オープンソース開発でのコード修正におけるコーディング規約違反の変化に関する調査, 織田泰輔・阿萬裕久・佐々木隆志・川原稔, 情報処理学会ソフトウェア工学研究報告, Vol. 2014-SE-186, No. 3, pp. 1-8, 2014.
- みんなでおでんきPJ～スマートメータシステムの実装～, 二宮政浩・鈴木才太・佐々木隆志・都築伸二・鈴木信・兼築史季・早田洋一・山田芳郎, 情報処理学会研究報告IPSJ SIG Technical Report, Vol. 2013-IS-123 No. 3, pp. 1-8, 2013.
- みんなでおでんきPJ～ソーシャルコンセントの実装～, 松重雄大・鈴木才太・佐々木隆志・都築伸二・鈴木信・兼築史季・早田洋一・山田芳郎, 情報処理学会研究報告IPSJ SIG Technical Report, Vol. 2013-IS-123, No. 2, pp. 1-6, 2013.
- Webデザインが視覚障がい者のユーザビリティに与える影響についての一実証報告, 高橋信行・佐々木隆志・川原稔, 電子情報通信学会 教育工学研究会 信学技報ET2011-43, Vol. 111, No. 213, pp. 41-46, 2011.

国際学会発表論文

- Empirical Analysis of Change-Proneness in Methods Having Local Variables with Long Names and Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 9th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2015), pp. 50-53, 2015.
- Predicting Fault-Prone Methods Focusing on the Combination of Inner Comments and Documentation Comments, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. Work in Progress Session held in connection with SEAA 2015 and DSS 2015, pp. 3-4, 2015.
- Empirical Analysis of Fault-proneness in Methods by Focusing on their Comment Lines, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 21st Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC2014), Vol. 2, pp. 51-56, 2014.
- Empirical analysis of comments and fault-proneness in methods: can comments point to faulty methods?, Hirohisa Aman・Sousuke Amasaki・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 8th ACM/IEEE International Symposium on Empirical Software Engineering and Measurement (ESEM2014), p. 63, 2014.
- Mutistage Growth Model for Code Change Events in Open Source Software Development: An Example using Development of Nagios, Hirohisa Aman・Akiko Yamashita・Takashi Sasaki・Minoru Kawahara, Proc. 2014 40th Euromicro Conference on Software Engineering and Advanced Applications (SEAA2014), pp. 207-212, 2014.

(2)学会発表等

中川 祐治

- 黒目中心座標の高速検出とSaccadeの検出頻度, 佐々木良・中川祐治, 平成27年度電気関係学会四国支部連合大会, 高知工科大, 2015年9月26日
- 画像認識による玉葱頭部の判別, 吉本祐真・中川祐治, 平成27年度電気関係学会四国支部連合大会, 高知工科大, 2015年9月26日

野口 一人

- 胎児心エコーセミナーの遠隔配信, 野口一人, 第5回未来大学メディカルICT研究会, 2016. 3
- SINETを使った胎児心エコー全国セミナーの報告, 川瀧元良, 波々伯部佳子, 工藤孔梨子, 安德恭彰, 清水周次, 野口一人, 魚瀬尚郎, 広帯域ネットワーク利用に関するワークショップ「ADVNET2015」, 2015. 10

川原 稔

- オープンソース開発における開発者の貢献度とソースコード品質の関係について, 山内一輝・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会ウインターワークショップ2016・イン・逗子論文集, pp. 41-42, 2016.
- プログラム依存グラフ上での命令間の距離に着目した凝集度メトリクスの提案とバグ予測への応用, 加藤健太・阿萬裕久・川原稔, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 115, No. 421, pp. 1-6, 2016.
- 共変更の新しさと開発者の貢献度合いに着目したロジカルカップリングの評価——ソースコード修正漏れの自動検出に向けて——, 尾田祐之介・阿萬裕久・川原稔, 情報処理学会研究報告ソフトウェア工学, Vol. 2015-SE-190, No. 17, pp. 1-8, 2015.
- 開発者の違いを考慮したコメント記述量の評価とバグ予測への応用, 中野貴史・阿萬裕久・川原稔, ソフトウェア信頼性研究会第11回ワークショップ論文集, オンライン, 2015.
- オープンソース開発における開発者ごとのコメント記述の傾向に関する調査, 中野貴史・佐々木隆志・川原稔・阿萬裕久, 電子情報通信学会技術研究報告, Vol. 115, No. 153, pp. 125-130, 2015.

和田 武

- Shiki HAIKUメーリングリスト・アーカイブのための市民によるモバイル・アプリ構想, 墨岡学・和田武・デビッドボグダン・福泉秀人・生田悠, 情報処理学会第77回全国大会, 2H-07, pp. 4-563~564, 2015. 3

阿萬 裕久

- テスト実行者情報を考慮した0-1計画モデルによる効率的なテストケース選択手法の提案, 阿萬裕久・中野隆司・小笠原秀人, 第22回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ, 山形県天童市・滝の湯, 2015.

仲道 雅輝

- eラーニングを用いたブレンド型授業におけるTA・SAの活用と成果, 秋山英治, 仲道雅輝大学教育学会第37回大会発表要旨集録(長崎大学), 120-121, 2015.
- 全学的なeラーニング普及推進の方策と成果, 仲道雅輝, 根本淳子, 鈴木克明大学教育学会第37回大会発表要旨集録(長崎大学), 150-151, 2015.
- 初年次教育から専門教育への接続, 秋山英治, 仲道雅輝, 日本リメディアル教育学会全国大会(北星学園大学)発表論文集, 64-65, 2015.
- プレイメントテストの実施が学ぶ姿勢の形成と主体性に及ぼす影響, 仲道雅輝, 秋山英治, 都築和宏日本リメディアル教育学会全国大会(北星学園大学)発表論文集, 150-151, 2015.
- 四国国立5大学における共通シラバスと履修プロセスの開発, 吉田明恵, 仲道雅輝, 根本淳子, 田中寿郎, 林敏浩, 村井礼, 金西計英, 宮下晃一, 立川明, 教育システム情報学会全国大会(徳島大学)発表論文集, 293-294, 2015.
- 高大連携におけるeラーニングの導入について, 秋山英治, 仲道雅輝, 初年次教育学会全国大会(明星大学)発表論文集, 154-155, 2015.

- 新たな教員研修モデル開発のためのFDワークショップ実践報告，加地真弥，根本淳子，仲道雅輝，小林直人，関田一彦，望月雅光，日本教育工学会第31回全国大会（東京電気大学）発表論文集，173-174，2015.
- 大学におけるe-Learning活用支援が授業改善に対する教員の認識に及ぼす影響－支援体制の充実に向けたアンケート結果から－，仲道雅輝，根本淳子，鈴木克明，日本教育工学会第31回全国大会（東京電気大学）発表論文集，601-602，2015.
- 四国地区5国立大学連携におけるe-Learning教育を円滑運営するための著作権処理の提案，村井礼，金西計英，高橋暁子，竹口幸志，田中寿郎，根本淳子，仲道雅輝，三好康夫，林敏浩，教育システム情報学会第40回全国大会（徳島大学）発表論文集，297-298，2015.
- 非同期遠隔型オンライン学習における個別化された学習ポータルサイトの構築に関する検討，高橋暁子，根本淳子，竹岡篤永，仲道雅輝，情報処理学会CLE研究会，研究報告コンピュータと教育（CE）. 2015-CE-132巻，36号，1-4，2015.

(1)教育活動

【講義】

中川 祐治

- 1) 講義（情報リテラシー入門）
 - 2015年度前期，情報リテラシー入門，150名，共通基礎教育科目，理学部
 - 2015年度前期，情報リテラシー入門，97名，共通基礎教育科目，法文学部
- 2) 講義（情報リテラシー入門以外）
 - 2015年度前期，環境を考える（シェアリングネイチャー），25名，教養教育科目，学部
 - 2015年度前期，卒業研究Ⅰ，3名，専門教育科目，理学部
 - 2015年度前期，数理学ゼミナールⅢ，1名，専門教育科目，修士
 - 2015年度後期，数学セミナーⅡ，1名，専門教育科目，理学部
 - 2015年度後期，情報数理学Ⅱ，18名，専門教育科目，理学部
 - 2015年度後期，情報数理学統論，3名，専門教育科目，理学部
 - 2015年度後期，卒業研究Ⅱ，3名，専門教育科目，理学部
 - 2015年度後期，応用数学，3名，専門教育科目，修士
 - 2015年度後期，数理学ゼミナールⅣ，1名，専門教育科目，修士

野口 一人

- 1) 講義（情報リテラシー入門）
 - 2015年度前期，情報リテラシー入門，150名，共通基礎教育科目，農学部
 - 2015年度前期，情報リテラシー入門，186名，共通基礎教育科目，法文学部
- 2) 講義（情報リテラシー入門以外）
 - 2015年度前期，情報ネットワーク，125名，専門教育科目，工学部
 - 2015年度前期，情報ネットワーク，13名，専門教育科目，教育学部
 - 2015年度前期，ネットワークシステム特論Ⅰ，3名，修士
 - 2015年度前期，ネットワークシステム特論Ⅱ，3名，修士

川原 稔

- 2) 講義（情報リテラシー入門以外）
 - 2015年度後期，情報基盤システム特論，21名，専門教育科目，理工学研究科博士前期課程
 - 2015年度前期，人間科学入門，158名，共通教育科目，学部

和田 武

- 1) 講義（情報リテラシー入門）
 - 2015年度前期，情報リテラシー入門，50名，共通基礎教育科目，法文学部
- 2) 講義（情報リテラシー入門以外）
 - 2015年度前期，データベース論，11専門教育科目，教育学部
 - 2015年度前期，データベース演習，11専門教育科目，教育学部
 - 2015年度前期，教材研究の基礎理論（情報），1，教育学研究科修士課程
 - 2015年度後期，プログラミング言語Ⅰ，9名，専門教育科目，教育学部
 - 2015年度後期，プログラミング演習Ⅰ，9名，専門教育科目，教育学部
 - 2015年度後期，人文学情報処理演習A，17名，専門教育科目，法文学部
 - 2015年度後期，教材の開発と実践（情報），1，教育学研究科修士課程

阿萬 裕久

- 1) 講義（情報リテラシー入門）
 - 2015年度前期，情報リテラシー入門，46名，共通基礎教育科目，教育学部

2) 講義（情報リテラシー入門以外）

- 2015年度前期，ソフトウェア工学，96名，専門教育科目，工学部
- 2015年度後期，情報基盤システム特論，21名，専門教育科目，理工学研究科修士
- 2015年度後期，プログラミング言語Ⅰ，100名，専門教育科目，工学部
- 2015年度後期，プログラミング言語Ⅰ演習，89名，専門教育科目，工学部

仲道 雅輝

2) 講義（情報リテラシー入門以外）

- 2015年度前期，新入生セミナー，55名，初年次科目，共通教育（法文学部・夜間主）
- 2015年度前期，新入生セミナー，135名，初年次科目，共通教育（法文学部・昼間主）
- 2015年度前期，愛媛大学リーダーズ・スクール，30名，発展科目，共通教育
- 2015年度後期，愛媛大学リーダーズ・スクール，30名，発展科目，共通教育

佐々木 隆志

1) 講義（情報リテラシー入門）

- 2015年度前期，情報リテラシー入門，55名，共通基礎教育科目，法文学部

【論文指導】

中川 祐治

- 2015年度 卒業論文指導 学生数 3名

野口 一人

- 2015年度 卒業論文指導 学生数 2名

川原 稔

- 2015年度 卒業論文指導 学生数 3名
- 2015年度 修士論文指導 学生数 3名

和田 武

- 2015年度 卒業論文指導 学生数 1名

仲道 雅輝

- 2015年度 SPOD次世代リーダー養成ゼミ，修了論文指導（主査），学生数2名

阿萬 裕久

- 2015年度 卒業論文指導 学生数 4名
- 2015年度 修士論文指導 学生数 3名
- 2015年度 博士論文指導 学生数 3名

【論文審査】

中川 祐治

- 2015年度 修士論文審査数（主査） 2名
- 2015年度 修士論文審査数（副主査） 1名

野口 一人

- 2015年度 修士論文審査数（副主査） 1名

3. 教育活動及び教育支援

(1)教育活動

川原 稔

- 2015年度 修士論文審査数（主査） 3名
- 2015年度 修士論文審査数（副主査） 3名

和田 武

- 2015年度 修士論文審査数（副主査） 4名

阿萬 裕久

- 2015年度 修士論文審査数（主査） 3名
- 2015年度 修士論文審査数（副主査） 3名

(2)教育支援

【授業改善】

- 教育デザイン室の設置による授業設計支援

愛媛大学におけるe-learningを活用した授業改善を効果的・効率的に実現する方策の要として「教育デザイン室」（インストラクショナル・デザイン・オフィス）を設置し、ICTを活用した授業設計を支援する体制の整備・拡充を行い、安定的な運用を行っている。

教育デザイン室は、科目担当者の個別の授業改善を支援するほか、学部の教育改革に伴うカリキュラム改善に関わる支援など、ICTを活用した教育方法の提案を行っている。各授業では、科目担当教員は、日々の授業や業務の合間の時間を活用して授業設計の改善に取り組むことができるよう、専属の担当者がインストラクショナル・デザイン(教育設計)手法を用いた個別の支援を行っている。また、授業設計やカリキュラム設計、フィールドワークと対面授業の効果的な授業設計、e-learningと対面授業の効果的な授業設計等についても支援している。

- 授業コンサルテーション、2015年 学内2件、学外2件（高知学園短期大学、愛媛県立医療技術大学）

- FD研修会講師、

- ・「学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法（学内1回）」、教育・学生支援機構、2016年1月、
- ・「学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計－課題分析図の活用」（学内1回、学外3回）愛媛大学、2015年9月、環太平洋大学、2015年9月、高知学園短期大学、2015年10月、四国大学2016年3月、
- ・「アクティブラーニングのための授業設計ワークショップ」学外4回、創価大学、2015年3月、9月、2016年3月
- ・「授業デザインワークショップ（2回）」、教育・学生支援機構、2015年7月、9月
- ・「学習者の学習意欲を高めるためのインストラクショナル・デザイン（ID）入門～ARCS動機付けモデルの活用～（学内1回）」、SPOD、愛媛大学、2015年9月
- ・「e-learning入門～Moodleソフトを使ってきめ細やかな学習支援を実現しよう～」、教育・学生支援機構、2015年9月
- ・「効果的なeラーニングの活用方法」、（学内1回、学外1回）教育・学生支援機構、2015年9月、阿南工業高等専門学校、2015年7月

【サークル等活動指導】

中川 祐治

- キリスト者学生会（KGK）顧問

仲道 雅輝

- SCVメディアサポーターズ映像部顧問

(1) 研究成果

中川 祐治

● 両目同時検出による受講者観察システムの高性能化

学習者が読書時に自然に発生する眼球運動であるサッケードの検出を精度良く行うため、測定時間の短縮と黒目の認識精度向上の目的で「全方向微分フィルタ」を開発してきた。全方向微分フィルタとは、画像中に存在する半径 r の黒円の中心である可能性を評価するフィルタである。これまでのシステムでは黒目中心座標の検出に全方向微分フィルタ処理を用いている。本研究では、全方向微分フィルタ処理の計算量を削減することで黒目中心検出処理の高速化を図る。全方向微分フィルタ処理はフィルタ中心から 360° 全ての方向に対して微分を行うが、実際に撮影した映像に映る受講者の黒目は瞼によって上下の境界部分が隠れるため真円にならない。そこで、上下方向に対する微分を削減した円弧エッジ抽出フィルタを用いることで黒目中心検出処理の高速化を図る。本研究では、 $\theta \geq 120^\circ$ のときに従来手法で得られる黒目中心座標との誤差が1 pixel未満となることから $\theta = 120^\circ$ に設定する。また、黒目中心除外による計算量削減手法を提案する。黒目中心除外とは黒目中心である可能性が低い画素をフィルタ処理から除外することを指す。Saccadeの検出には、複数フレームの黒目中心座標から作成したギャップイメージに対してSaccade検出フィルタ処理を行う手法を用いている。フィルタ処理結果をSaccade検出パターンと照合することでSaccadeを検出する。この手法ではSaccade検出パターン内に1点のみ誤差を含む場合を許容することによって、黒目中心の検出精度が低下している状況でもSaccadeを検出することができる。

● 玉葱皮剥き機の画像処理を用いた3次元認識モジュール開発

公益財団法人えひめ産業振興財団の委託を受けて平成25年度から実施している戦略的基盤技術高度化支援事業「玉葱皮剥き機の画像処理を用いた3次元認識モジュール開発」を担当した。本研究では、カメラを用いた撮影画像から玉葱の立体構造を構築し、形状判定と状態判定を行うアルゴリズムを開発する。本研究の中で我々は入力画像にフーリエ変換を施し、パワースペクトルを算出することによって、玉葱の頭部と根部を判別するアルゴリズムを構築した。このアルゴリズムでは、ビデオレートに近いコマあたり平均33.5ミリ秒での実行が可能である。

● 透視変換を考慮した物体の距離推定

現在、インターネット上には様々な画像がアップロードされクラウドに蓄積されている。このような画像にはGPSによる日時や位置情報が付加され、SightsmapやInstagramのようなサービスで閲覧することができる。本研究では、不特定多数の人物が任意のカメラで撮影した画像を用いて室内外の様々な物体を3次元空間上に再構成することを目的に、その基礎的な理論の構築を行った。一般には撮影されたカメラの3次元パラメータを用いて空間再構成を行うが、本研究で用いる非同期多視点カメラでは3次元パラメータを求めることができない。そこで本研究では物体から任意の距離で撮影されたカメラの距離を透視変換による図形の歪みから推定する研究を行った。

野口 一人

● 光デバイスに関する研究

強誘電体であるニオブ酸リチウム (LiNbO_3) は、優れた電気光学特性、音響光学特性、非線形光学特性を有しており、光通信システムにおける光変調器、TVや携帯電話における中間周波数 (IF) フィルタ、小型振動子、光ジャイロなど様々な分野で使用されている。

光通信の分野では、光源である半導体レーザーの後段に接続される外部光変調器として研究開発が進み、今日の長距離・大容量情報通信ネットワークを支えるキーデバイスの一つである。現在もなお、将来の大容量化・高性能化を目指した研究開発が進められている。今まで進めてきた LiNbO_3 光変調器の設計、製造、評価に関する研究成果と他の研究機関における最新の研究成果をまとめ、著書にした。

現在、光変調器のさらなる高性能化を図るため、小型化が有望な材料を用いたシリコンフォトニクス、低駆動電圧化が有望な電気光学ポリマーなど、他の材料系のデバイス設計に取り組んでいる。卒論指導を通じて有限要素法による解析プログラムの作成、およびデバイスシミュレーションを進めている。

● 遠隔医療教育に関する研究

ICT技術の高度利用と地域貢献のため、東北大学の専門医、九州大学病院のスタッフ、愛媛中央病院の医師らと協力して胎児心エコーの遠隔医療教育に関する研究を進めている。平成28年1月30日、31日の2日間、東京都千代田区の国立情報学研究所講堂で開催された第59回神奈川胎児エコー研究会アドバンス講座を全国の大学に中継し、遠隔セミナーを実施した。愛媛県においては、愛媛大学メディアホールまで遠隔中継し、愛媛県内及び近隣の産婦人科医・超音波技師に受講環境を提供した。

4. 研究活動及び研究支援

(1) 研究成果

図1に接続構成図を示す。国立情報学研究所を主会場とし、会場で実施される専門医のセミナー映像を、ビデオ会議システムとSINET 4を使って九州大学病院アジア遠隔医療センターに送信する。遠隔会場である北海道大学、弘前大学、東北大学、名古屋大学、滋賀医科大学、愛媛大学、広島大学、九州大学、宮崎医科大学、琉球大学も同様にSINET 4経由でアジア遠隔医療センターに接続している。九州大学病院ではMCUを使って映像を集約し、セミナーの内容を全国に中継した。参加者は東京会場で約300人、遠隔会場を合わせて約200人であった。

また、H.323のシステムのバックアップとして、Web会議システムによるストリーム配信も並行して実施した(図2)。こちらは、商用インターネット回線を通じて、手元の端末で視聴可能とした。

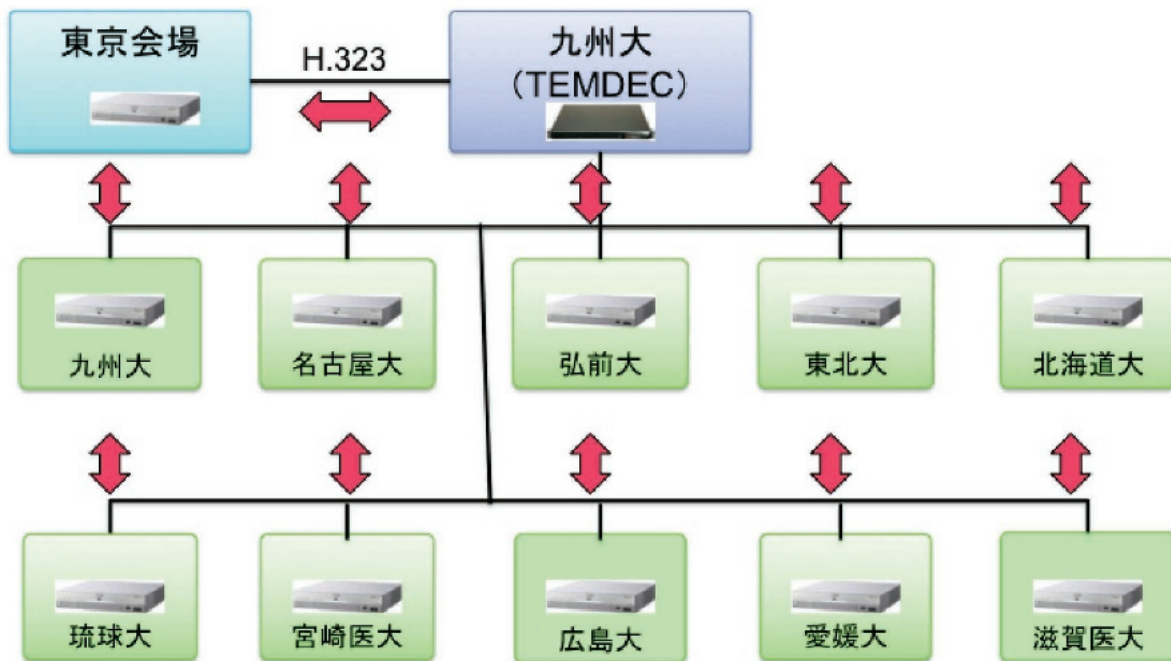


図1. アドバンスセミナー接続構成図 (H.323会議システム)

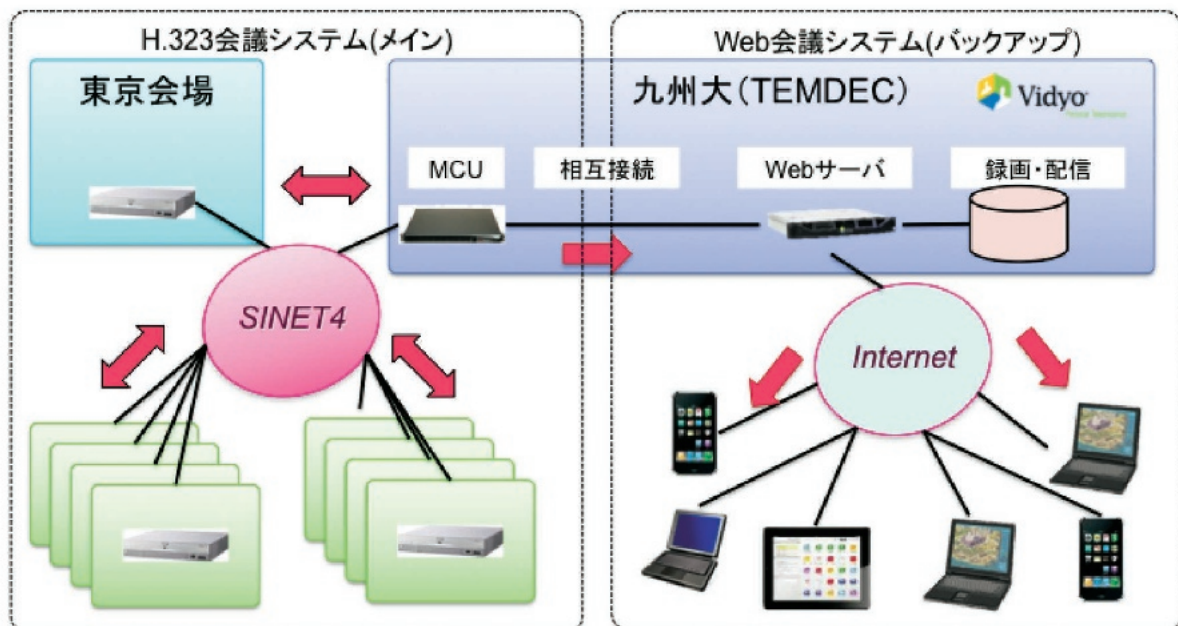


図2. H.323会議システムとWeb会議システム

愛媛大学では、メディアホール備え付けのビデオ会議端末を用いて信号を受信し、医療映像を備え付けのプロジェクトに投影した。丸2日間にわたり、愛媛県立中央病院など愛媛県内の病院やクリニックから産科医・超音波技師が参加し、胎児心エコーに関する基礎的な診断技術を受講した。

川原 稔

●視線誘導型視野計測手法に関する研究

視野の把握は、緑内障や網膜変性症などの疾患を早期発見・早期対処するために重要な役割を果たす。現存する視野計測法では、視線を固視して計測を行う必要があるが、被験者にとって負担が大きいものである。本研究では、視野計測を行うための視標を目で追って視線を自由に動かすことができる計測法を発明し、被験者が反応する時間計測に基づいて視野暗点を検出することができるようになった。さらに、一般的に視力計測で用いられるランドルト環に対して、視覚の分解能を正確に計測する視標も開発することができた。これらは、国立大学法人愛媛大学知的財産権規程第5条の規定に基づいて、愛媛大学より特願2015-15372「視野計測方法、視野計測装置および視力検査視標」として特許出願を行った。

●労働安全衛生に関する研究

身体の疲労が労働安全衛生にかかわる重大な事故等につながることは社会的に認知されていることである。本研究では、疲労の定量化を視作業の計測に基づいて行うことを試みている。眼精疲労を計測する従来からの手法であるフリッカーテスト計測法に改良を加えて、収集したデータの分析から眼精疲労の傾向を把握することができた。さらに、色覚と眼精疲労の関係についての研究を進めており、スループテストを応用して負荷を加える手法及び色覚特性を計測する手法の開発を行った。

●情報保障に関する研究

視覚障がい者がICT（情報通信技術）を活用して、情報収集やeラーニング学習を効果的に行えるようなICT環境、特に情報デバイスの最適化に関する研究を行っている。視覚障がい者の中でもわずかに視覚が残っているロービジョン者が、一般に流通している情報デバイスを利用しやすいように、最適な表示文字サイズを計測する視条件評価チャートを開発した。そして、視条件評価チャートと従来から広く用いられている実読書を要する計測法との関係を明らかにして、同等の性能を短時間で得られることが判明した。

和田 武

●英語俳句データベースからの特徴抽出

約20年間、英語俳句サーバShikiの句会を運用してきた経験に基づき、中学高校生などを含む初心者がもっと容易に英語俳句が投句できるような仕組みが必要と感じ、英語俳句投句支援システムの構築に関する研究を行っている。まず、蓄積されたデータベースに形態素解析を加え、英語俳句によく用いられる語彙や英語俳句の構造を分析している。本研究は、2012年3月の情報処理学会第74回全国大会において「英語俳句メーリングリストからの知識抽出」の研究テーマで、2013年3月に国公立大学情報システム研究会では「英語俳句投句支援システム構築に向けたメーリングリストからの特徴抽出」の研究テーマで、それぞれ研究発表を行った。2013年度は2013PC Conferenceで「英語俳句投句支援システム構築に向けた構文解析」について、日本教育情報学会では「英語メーリングリストの構文解析」の題目で研究発表を行った。これらの研究について、「Haiku入門システム構築に向けた構文解析」を教育情報研究、Vol. 30, No. 1でまとめている。2014年度は、学術情報処理研究No. 18の「データベースからの情報抽出」で、また、教育情報研究、Vol. 30, No. 1の「Haiku入門システム構築に向けた構文解析」で研究成果をまとめた。また、2015年度は、松山大学論集の第27巻第4-2号「愛媛における学術情報ネットワークの黎明期」において、本研究内容について総括した。

●テスト理論に関する研究

Moodle (Course Management System) の多肢選択方式等を用いた小テストによる成績評価が数多く実施されているが、作成した問題の内容によっては、正解率に大きな差が生じて正当な評価ができない場合がある。そこで、受験者の学習評価や指導内容と学習達成度の整合性などを分析し、試験問題の難易度や受験者の能力値といった特性を定量化する項目反応理論やラッシュ測定理論などの現代テスト理論による分析が行われている。2012年8月に2012PC Conferenceで「現代テスト理論に基づく小テスト問題の分析」の研究テーマで発表し、2012年9月の第16回学術情報処理研究集会で「CMS 小テスト問題分析による授業改善の試み」の研究テーマで発表を行った。2013年度は、教育学部総合人間形成課程情報教育コース学生の卒業論文「現代テスト理論に基づく多肢選択問題の妥当性の検証」の論文指導を行った。2015年度は、新Moodleを用いたテスト理論を用いた研究を開始している。

● e-Learningによる基礎数学及び基礎物理学の学習

理学部ELサポータの協力も得て、高校数学及び物理学の未修学生のための補習教育や、習得レベルの向上を目指した自学自習システムをe-Learningシステム上に構築し、新入学生の数学及び物理学の基礎的知識の底上げ可能なシステムの開発及び運用を行った。本研究は、大学情報システム環境研究Vol.14に「基礎数学・基礎物理学リメディアル教材の製作」の研究テーマで発表し、愛媛大学Moodleの自主学生教材（高校・大学初年次程度）に数学リメディアル教材、及び物理学リメディアル教材として学内に公開している。2014年度は、学外からの利用要請に応える形で本コンテンツを試験的に公開している。2015年度は、本リメディアル教材の管理を理学部教員に委託した。

阿萬 裕久**● データ解析に基づいたソフトウェア品質評価・予測に関する研究**

ソフトウェアの品質はその開発に携わる技術者の経験や力量に依存しやすく、個体差が大きい。そのため個々の案件だけでなく、統計的なデータ解析の観点からソフトウェアの品質を評価・予測することが重要であり、90年代後半からこのテーマに取り組んでいる。現在は特に、プログラマがプログラムの中に書き込むコメント文の品質に対する影響に着目しており、科学研究費補助金・基盤研究(C)の研究代表者としてコメント文の功罪について研究を行っている。あわせて、プログラムの書き方に関する規約違反を切り口とした研究も行っている。平成27年度はこのテーマでの成果発表を8件（学術雑誌論文1件、国際会議2件を含む）行い、他大学の研究者からは良好な反応が得られている。特にソフトウェア工学におけるトップカンファレンスの一つであるESEM2015にも論文が採択され、国際会議発表での聴衆の反応は上々であった。

● 効率的なソフトウェアレビュー及びテストの実践に関する研究

一般にソフトウェアの正しさは、その内容確認と動作確認によって保証される。前者はレビューと呼ばれ、多くの場合は複数の技術者がドキュメントやプログラムの内容を目視によって確認する作業となる。後者はテストと呼ばれ、実際にソフトウェアが正しく動作するかどうかを確認する作業となる。いずれも重要な作業であるが、工数(人手と時間)を多く必要とするところが現場では大きな問題となっている。この問題を解決すべく、平成22年からレビュー及びテストの計画に数理計画モデルを応用する手法を提案し、その効果について研究を行っている。平成24年からは東芝とテストの効率化について共同研究を行っており、平成27年度には成果発表を2件（学術雑誌論文1件を含む）行った。特に学術雑誌「コンピュータソフトウェア」に発表した論文は、NPO法人ソフトウェアテスト技術振興協会からソフトウェア品質に関する論文の中で過去1年間で最も優れた論文と認められ、第9回善吾賞として表彰された。

● オープンソース開発プロジェクトに関する研究

近年、Linuxに代表されるようにオープンソースソフトウェアが広く使われるようになってきた。オープンソースソフトウェアはリポジトリと呼ばれるシステムを介してソースコードそのものがすべて公開されており、その追加や修正もリポジトリで容易に確認できる。しかしながら、単にリポジトリにアクセスするだけでは、現時点での開発状況を把握したり、今後の開発の進展を予測したりするのは容易ではない。そこでリポジトリ上での開発データをさまざまな切り口から解析し、状況の把握と予測を行う研究を進めている。平成27年度には国内のワークショップにて成果発表を行った。

仲道 雅輝**● 高等教育機関における全学的なe-learning推進に関わる研究**

本研究は、段階的に研究を進めている。

1段階目は、実践対象校において、履修登録前に学習目標や授業内容の確認を容易にするオンデマンド化された科目ガイダンスビデオを開発し、2008年度より本格的な利用を開始した。この導入により、全教員がe-learningコンテンツ制作に関わることとなったためにe-learning制作に対する不安や負担感を減少させることができた。その一方、シラバスの見直し、学習目標をより明確化する等のFD活動も活発化させ、ICTを活用したブレンド型授業が増加するなどの全学的な教育改善に進展してきている。本研究では、科目ガイダンスビデオの開発、視聴実施に至るまでの組織的な取り組みと、科目ガイダンスビデオ開発の効果を検証するために行った開発に携わった教員へのアンケート調査の結果を報告している。多くの教員は科目ガイダンスビデオの開発をかなり好意的に受け入れており、その視聴実施は受講生に対して十分な効果が認められるという考えをもっていることが分かった。本研究は、論文誌（日本教育工学会／増刊号（2009）（1本）採録、国際学会（教育メディア学会／ICOME2009）（1本）採録されている。

2段階目は、高等教育でのe-learningの全学的普及に効果的な方策を見出し、今後の普及活動への示唆を得ることを目的としている。実践過程の仕掛けの紹介とともに、実践過程を振り返り、e-learningの全学的普及に向けて大学全

体を巻き込んでいくための方策について、教員アンケートや導入段階から普及・定着の過程をまとめ考察している。結果、教員のe-learningコンテンツ制作数の増加につながり、これらからICT活用による授業展開方法の周知等のe-learning普及に対する促進効果が示唆された。本研究を論文誌（教育システム情報学会）に投稿している（1本）。

研究報告としては、国内学会（日本教育工学会：5本、教育システム情報学会：4本、日本教育メディア学会：1本、大学eラーニング協議会合同フォーラム：3本）で発表している。

また、対面授業からブレンディッドラーニングへの再設計支援の取り組みをまとめたものが、論文誌に2件採録された（愛媛大学教育実践ジャーナル第12号、第13号）。

今後は、私立大学と国立大学法人での全学的なe-learning推進に関わる学内マネジメントの重要性を含め、普及要因を普遍化し、教員への半構造化インタビューを通して、普及方略の妥当性を検証するとともに、広く高等教育機関にモデルとして提示していきたい。

●FD・SD活動の普及要因に関わる研究

FD活動の一環としてe-learningの活用を大学全体で推進し、その効果をアンケートやインタビュー調査等をもとにした分析・考察を通して検証するものである。特に、e-learning推進の過程を「導入」「普及」「定着」の三段階に分け、各段階における独自の取り組みについて研究を行っている。それらの取り組みの成果として、インタビューの回答等に現れた教員の意識改革についての考察を通じて、e-learning推進がFD活動を促進させる一要因となっていることを明らかにしている。本研究は、論文として国際学会（教育メディア学会/ICOME2012、ICOME2009）にて発表をしている（2件）。

更に、教職員の能力開発に関わるSDコーディネーター（SDC）養成等の事例報告を国内学会にて発表している（5件）。

今後は、教育改革・業務変革時における教職員の意識変容に関わる調査並びに効果検証等を行っていきたい。

●学生能力開発における成長過程に関わる研究

初年次教育や学生リーダーシップ教育に関わって、学習経験の質に関する研究を進めている。

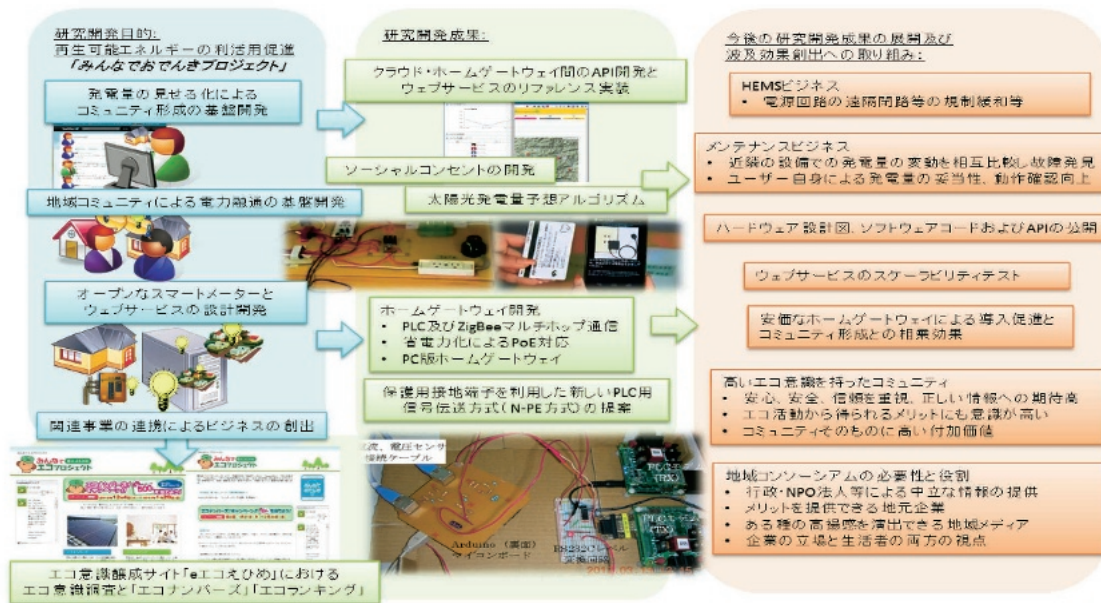
学習経験の質に関する研究では、実践対象校で初年次教育科目として開講している新入生セミナーを通じて、学習者の学ぶ姿勢を育成しているかどうかの効果検証及び調査項目の提案を行っている。その基礎となる調査項目の着眼点をパリッシュの「学習経験の要因モデル」の学習経験のレベルを左右する要因から探っていく。具体的には、学習状況に関わる要因と学習者個人に関わる要因があり、これらの要因によって、学習経験の質が変化すると捉えている。その中で、「学習者個人に関わる4要因」を基盤に調査項目を立案・調査・実施した結果を報告している。本研究は、国内学会（日本教育工学会第28回全国大会講演論文集）に発表している。また平成27年度文部科学省・科学研究費助成事業・基盤研究(C)に採択され、「学習者要因に着目した学習経験自己評価表の開発と評価－初年次教育での学ぶ姿勢の育成」（研究代表者）研究を進めている。

本研究は、パリッシュの「学習経験の要因モデル」にある「学習者要因」に焦点をあて、その支援方略を明らかにし、「学習経験自己評価表」を用いることで、望ましい学習姿勢を身につけ、学習効果が向上することを目指す。また、教員が学習経験を高める授業改善に使える「授業改善ヒント集」も作成し、授業改善を支援することを目的としている。平成27年度は、「授業改善ヒント集」及び「学習経験自己評価表」の一次案を作成している。今後、授業実践で適用し、妥当な評価表となるよう分析を進める。

佐々木 隆志

●スマートメータとSNS連携による再生可能エネルギー利活用促進に関する取組

現在、持続可能な再生可能エネルギーの利用方法として、主に商用送電網に依存した余剰電力買い取りの仕組みが用いられている。しかし送電網に流入する電力の大幅な増減は系統安定を損なうことが予想され、また災害時には送電網の障害も想定されるため、商用送電網に依存しない地産地消型のエネルギー利用についての研究が求められている。本研究では再生可能エネルギーの利用や環境負荷軽減に関心のある人々のコミュニティ形成にも役立つようSNSを利用したコミュニティ及び地域単位での太陽光発電量の可視化と、そのために必要なホームゲートウェイ、加えて災害時にかぎらず平常時においても役立つ電力地産地消の仕組みであるソーシャルコンセントを開発した。一般に防災は自助、共助、公助の組み合わせであるといわれるが、エネルギー利用に関しては自家発電による自助相当部分、商用送電網による公助相当部分しか存在せず、エネルギー共助についての取り組みが欠けていた。本研究はそのための一つの方法を提案するものである。本研究は総務省戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE）の平成23年度新規課題「スマートメータとSNS連携による再生可能エネルギー利活用促進基盤に関する研究開発（2年間）」として取り組んだ。なお、成果については平成25年6月にえひめITフェアで発表した。



(1)沿革

- 昭和41年3月 愛媛大学電子計算機室（学内共同利用施設）発足，HIPAC103（主記憶：4KW）導入
- 昭和50年2月 愛媛大学計算機室に名称変更
- 昭和50年3月 FACOM230-28（主記憶：96KB）を設置，九州大学大型計算機と専用回線で接続
- 昭和57年7月 情報処理センター発足
- 昭和57年11月 情報処理センター建物完成（835.3平方メートル）
- 昭和58年2月 FACOM M180IIADシステム（主記憶：12MB）導入
- 昭和58年3月 九州大学大型計算機センターと大学間ネットワーク（N1）手順により接続
- 昭和60年3月 DDX加入
- 昭和61年11月 FACOM M360AP（主記憶：24MB）に変更
- 昭和62年4月 FACOM M360APシステムに更新
- 平成2年1月 学術情報センターノード運用開始，DDX解除
- 平成2年10月 JUNET電子メールサービスの開始
- 平成3年2月 FACOM M770/6システム（主記憶：64MB）導入
- 平成4年2月 JAITに接続
- 平成5年4月 総合情報処理センター発足
- 平成5年12月 SINETノード設置
- 平成6年2月 FACOM M1600/6システム（主記憶：128MB），CONVEX C3440CTシステム導入
- 平成6年3月 学内ネットワーク（EUNET）の構築
- 平成9年11月 ATMネットワークシステムの構築
- 平成10年2月 S-7/7000Uモデル500，FACOM M1600/6システム導入
- 平成12年2月 総合情報処理センター建物完成（1871平方メートル）
- 平成13年3月 学内ギガネットワークシステムの構築
- 平成14年2月 PRIMPOWER600，パソコンシステム導入
- 平成15年4月 総合情報メディアセンター発足
- 平成15年9月 総合情報メディアセンター・放送大学建物完成
- 平成18年2月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成19年6月 SINET3本格運用
- 平成22年3月 構内光ケーブル張替
- 平成22年10月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成23年3月 SINET4運用
- 平成23年4月 先端研究・学術推進機構総合情報メディアセンターに組織変更
- 平成26年9月 総合情報メディアセンター情報基盤システム導入
- 平成28年2月 SINET5運用

5. 業務関連

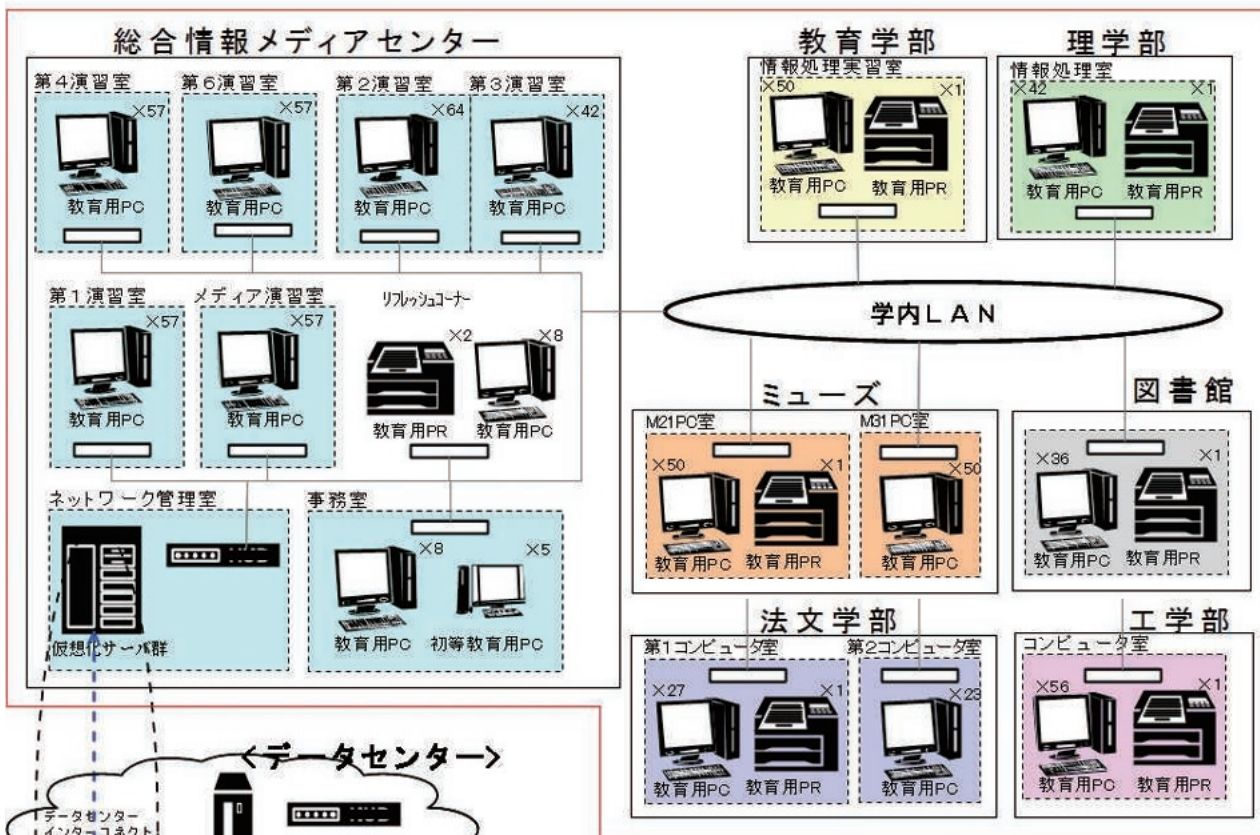
(2) 情報基盤システム

(2) 情報基盤システム

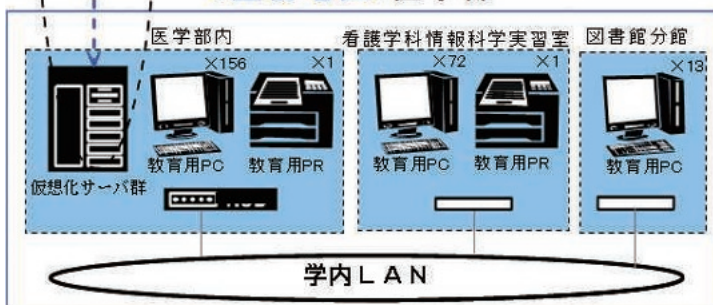
● システム構成概念

平成27年度のシステム概念は次のとおりです。

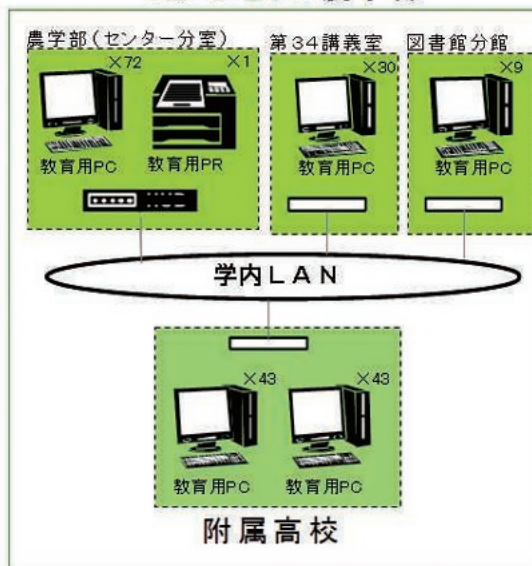
<城北地区>



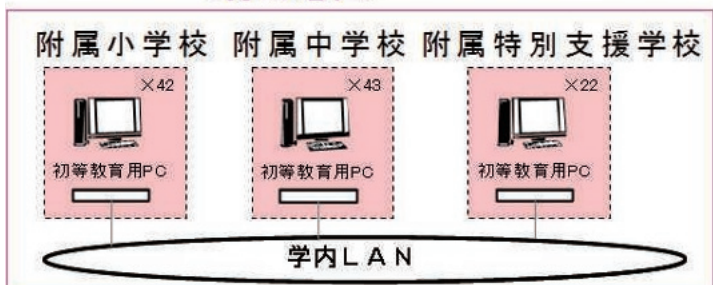
<重信地区> 医学部



<樽味地区> 農学部



<持田地区>



5. 業務関連

(2) 情報基盤システム

●ソフトウェア一覧

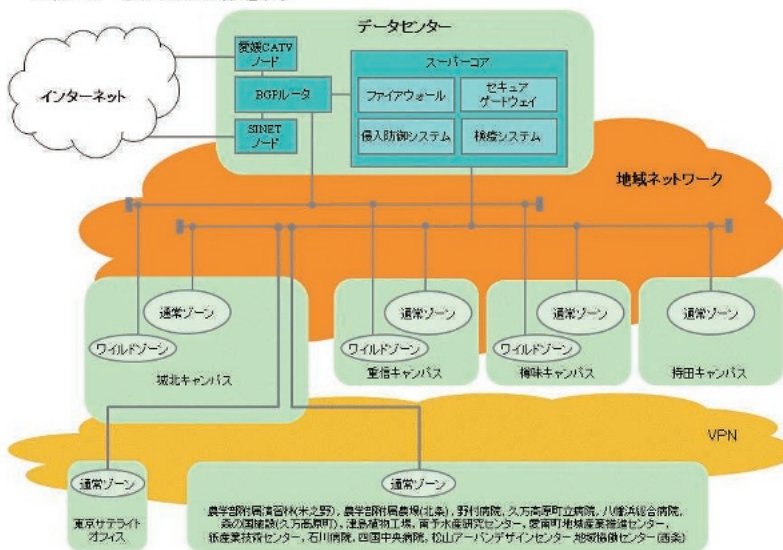
平成27年度の各演習室で使用可能なソフトウェアは次のとおりです。

ソフトウェア名	イメーティブ									
	城北共通	城北工学部	医学部の 総合教育 等学	医学部の それ以外	農学部	附属高校	小学校	中学校	特別支援学校	
Windows 8.1(OS)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Microsoft Office Professional 2013	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Microsoft Windows Visual Studio 2013	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7-Zip(ファイル圧縮ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
AcceLys Draw(化学構造式作成ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Adobe Reader(PDF閲覧用ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Android SDK(Android開発環境)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
AutoCad2015(CADソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
CEIT(医学部試験実施ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Chem Sketch(化学構造式描画ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Chrome(Webブラウザ)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Cywin(Unix環境)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Eclipse(統合開発環境)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Firefox(Webブラウザ)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Flash Player(ブラウザプラグイン)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Gaussian(計算化学用ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
GaussView(グラフィカル・インターフェース)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
GIMP(ペイントソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Google Earth(バーチャル地球儀ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
.JDK(Java開発ツール)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Jw_cad(2次元汎用CADソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Lhaplus(ファイル圧縮ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
MANDARA(地理情報分析支援システム)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
INDR(ビューソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Primo PDF(PDF作成/変換ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
QuickTime(動画再生ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
RealPlayer(動画再生ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
SAS Analytics pro(統計解析ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
SolidWorks(3次元CAD設計ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
SPSS(教育用統計ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
SPSS(統計解析ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
TeXworks(TeX統合環境プログラム)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Thunderbird(メールクライアントソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
VirtualBox(仮想化PC作成・実行ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
wgnuplot(グラフ作成ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Windowsムービーメーカー(ビデオ制作・編集ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
一太郎ビューア(一太郎ビューソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
スクリーンエディタ(テキストエディタ)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
花子ビューア(花子ビューソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
統計解析言語 R	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Inkscape(高機能ドローソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Tera Term(ターミナルエミュレータ)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
arduino(マイコンボード)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
LIFE with PhotoCinema3(フォトムービー作成ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
SCRATCH(プログラミング言語)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
XmediaRecode(動画一括変換ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
かくいランドセル(小学1~6年総合学習ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ジャストスマイル(学習・授業支援ソフト)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
一太郎日本語ワープロソフト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
バーコードフォント(GODEI28)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●ネットワーク概念

平成27年度の情報基盤システムネットワークは次のとおりです。

ネットワークシステム概念図



*通常ゾーンでは無線ネットワークも提供

図 ネットワーク概念

(3) 事業実績

●セキュリティ関連

- ・セキュリティ対策調査実施（7月）

申請されている学内のサーバについてセキュリティ対策状況の調査を行った。

- ・セキュリティ脆弱性検査実施（3月）

セキュリティ対策調査実施を元に、必要と思われるサーバについてセキュリティ対策脆弱性検査を実施し、脆弱性が発見された利用者には通知を行い、対策を依頼した。

●ネットワーク関連

- ・野村病院，市立八幡浜総合病院，津島植物工場とVPN（光）で接続（5月）

- ・農学部附属演習林（東野）との接続終了（12月）

- ・SINET 4 からSINET 5 へ切替（2月）

- ・地域協働センター（西条）との接続（3月）

- ・東京サテライトオフィス移転（3月）

(4) 利用状況

平成27年度のセンター利用状況は次のとおりです。

●情報基盤システム

センターメール及びLMS利用アカウントは、全学アカウントを持つ教職員及び学生以外の方が対象です。

申請種別	登録数
センターメール	36件
セキュアゲートウェイ	451件
ホスティング (OS)	38件
ホスティング (Web)	70件
LMS利用アカウント	184件
LMS利用 (コース登録)	1,004件

●夜間開放・休日開放

夜間開放は、毎週月～金の17:00～21:00、休日開放(2007年9月から実施)は、10:00～17:00に第1演習室を開放しています。(ただし、夏季休暇及び冬季休暇中は除く)

年 月	夜間開放利用者数	休日開放利用者数
2015年4月	219人	85人
2015年5月	344人	117人
2015年6月	620人	111人
2015年7月	721人	217人
2015年8月	57人	24人
2015年9月	23人	35人
2015年10月	427人	109人
2015年11月	654人	137人
2015年12月	691人	106人
2016年1月	545人	112人
2016年2月	388人	84人
2016年3月	-	-

●メディアホール(2月3月は工事のため一時閉館)

年 月	利用件数	年 月	利用件数
2015年4月	9	2015年10月	14
2015年5月	7	2015年11月	17
2015年6月	11	2015年12月	8
2015年7月	20	2016年1月	8
2015年8月	12	2016年2月	-
2015年9月	15	2016年3月	4

5. 業務関連

(4) 利用状況

● 演習室

平成27年度前期演習室予定表

曜日	時限	8:30~10:00	10:20~11:50	12:40~14:10	14:30~16:00	16:20~17:50	18:00~19:30	19:40~21:10
		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限
月	第6演習室 (4階)<56席>	現代と科学技術 (医,看護,I,SSC) 松浦 一雄		設計製図 (工・3年)				
	第4演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門 (理学部)		高橋 学				
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	中川 祐治		情報リテラシー入門 (農学部)	製図基礎実習 (工学部2年) 朱 霞			
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門 (理学部) 大塚 寛		野口 一人		夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>	情報リテラシー入門 (理学部) 谷 弘幸		情報リテラシー入門 (農学部) 堤 三佳				
火	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門	リーガルリサーチ (法・総政2年) 上山 友一		フィールドワーク (法・総政2年) 泉 日出男	工学実践英語 (工・機械 2年) 有光 隆		
	第4演習室 (4階)<56席>	(工・機械, 電電, 環建)		情報リテラシー入門 (医, 看護, SSC)	情報リテラシー入門 (教育)	工学実践英語 (工・機械 2年) 柴田 諭		
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	二宮 崇		平田 浩一	平田 浩一			
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門 (工・機械, 電電, 環建) 小林 真也		情報リテラシー入門 (医, 看護, SSC) 岡本 好弘	情報リテラシー入門 (教育) 岡野 大	夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>	情報リテラシー入門 (工・機械, 電電, 環建) 大賀 水田生			情報リテラシー入門 (教育) 阿萬 裕久			
水	第6演習室 (4階)<56席>		リーガルリサーチ (法・総政2年) 上山 友一					現代社会の諸問題 (法・夜間主2回生以上) 中村 悦大
	第4演習室 (4階)<56席>							
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			情報リテラシー入門 (法・人文) 中川 裕治				
	第1演習室 (2階)<56席>			情報リテラシー入門 (法・人文) 木下 浩二		夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>		応用数学理論 (博士課程1年) 大塚 寛		データベース論 (教育) 和田 武			
木	第6演習室 (4階)<56席>	現代と科学技術 (法文, 理 1) 井門 俊	人文学情報処理演習 (法文2~4年) 大谷 尚之					
	第4演習室 (4階)<56席>	現代と科学技術 (法文, 理 1) 都築 伸二						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>				製図基礎実習 (工学部2年) 朱 霞			
	第1演習室 (2階)<56席>					夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>							
金	第6演習室 (4階)<56席>	情報リテラシー入門		情報リテラシー入門				
	第4演習室 (4階)<56席>	(法・総合政策)						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	野口 一人		(工・能材, 応化, 情報)				情報リテラシー入門 (法・夜間主) 佐々木 隆志
	第1演習室 (2階)<56席>	情報リテラシー入門 (法・総合政策) 和田 武		黒田 久泰	7/31	夜間開放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>		
	メディア演習室 (2階北)<56席>	情報リテラシー入門 (法・総合政策) 遠藤 慶一		朝鮮語Ⅰ (法文学部・4回生) 池 貞姫	データベース演習 (教育) 和田 武			情報リテラシー入門 (法・夜間主) 二神 透

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用してなければ、自習室として利用できます。
 * 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していないものがあります。

5. 業務関連

(4) 利用状況

平成27年度後期演習室使用予定表

曜日	時限	8:30~10:00		10:20~11:50		12:40~14:10		14:30~16:00		16:20~17:50		18:00~19:30		19:40~21:10	
		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
月	第6演習室 (4階)<56席>					情報処理 (工・環建) 井内 國光									
	第4演習室 (4階)<56席>					情報処理 (工・環建) 松村 暢彦									
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>														
	第1演習室 (2階)<56席>									夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>														
火	第6演習室 (4階)<56席>														
	第4演習室 (4階)<56席>			環境建設工学実験II (工・環建 3年) 全 邦釘			現代と科学技術 (総政,医,理,SSC 1年) 樋上 喜信		心理学実験演習B (法文 2年) 十河 宏行						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					プログラミング言語 (工・電気電子 1年) 松永 真由美		プログラミング言語 (工・機械 2年) 柴田 諭		政策情報論 (法文 総政) 梅田 道生					
	第1演習室 (2階)<56席>									夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>														
水	第6演習室 (4階)<56席>											2/3			
	第4演習室 (4階)<56席>			スポーツ情報処理 (教育 1年) 田中 雅人			情報基盤システム特論 (理工学研究科 M1) 阿高 裕久		情報基盤システム特論 (理工学研究科 M1) 阿高 裕久						
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>	情報処理入門 (教育 1年) 河村 泰之		コンピュータ基礎 (理学部・数学科 2年) 大塚 寛											
	第1演習室 (2階)<56席>									夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>							プログラミング言語演習1 (教育 1年) 和田 武							
木	第6演習室 (4階)<56席>														
	第4演習室 (4階)<56席>			情報通信システム特論 (博士前期課程 1年) 都築 伸二											
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>					CAD実習 (工・機械工学科 2年) 有光 隆									
	第1演習室 (2階)<56席>									夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>						人文情報処理演習A (法文 2年) 和田 武								
金	第6演習室 (4階)<56席>			技術英語 (工 機械工学 3年) 野村 信福											
	第4演習室 (4階)<56席>					現代と科学技術 (人文,教育,工 1年) 羽藤 聡治									
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>							創造設計製作 (工 機械工学科 3年) 堀 三佳							
	第1演習室 (2階)<56席>									夜 間 開 放 (17:00 ~ 21:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>					
	メディア演習室 (2階北)<56席>			教材の開発と実践(情報) (教育学研究科) 和田 武				プログラミング言語1 (教育 1年) 和田 武							

* 使用予定表に授業科目の記載がない場合、また記載があっても授業等で使用していない場合は、自習室として利用できます。

* 説明会・講習会、補講、集中講義等の一時使用については記載していないものがあります。

曜日	時限	13:30~15:00		15:10~16:40		16:50~18:20		
		1時限		2時限		3時限		
土	第6演習室 (4階)<55席>							
	第4演習室 (4階)<56席>							
	第2・3演習室 (3階)<63・42席>			生活科学入門 (法文夜間 1年) 古賀 理和				
	第1演習室 (2階)<56席>			休 日 開 放 (10:00 ~ 17:00) <夏期休業中、冬季休業中、年度末・年度始(2月中旬~4月上旬)は休止>				
	メディア演習室 (2階北)<56席>							

(5) センターイベント

● 情報セキュリティセミナー

主 催：愛媛大学総合情報メディアセンター
日 時：平成27年 9月11日(金) 14:00～15:50
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター 1F メディアホール
対 象：教職員及び学生

● キャンパスIT授業

主 催：愛媛大学
日 時：平成27年 9月 9日(水) 13:00～16:00
場 所：愛媛大学総合情報メディアセンター
対 象：高校生

(6) 各種委員会

【センター会議】

平成27年度第1回総合情報メディアセンター会議議事要旨

- 1 平成27年9月8日(火) 13:00~13:45
- 2 総合情報メディアセンター会議室
- 3 出席者：高橋センター長，塚本委員，観音委員，山本委員，木村委員，二宮委員，高木准教授(羽藤委員代理)，中川委員，野口委員，川原委員，和田委員，佐々木委員，石田委員
- 4 欠席者：阿萬委員，仲道委員

議事に入る前に，今年度最初の会議であるため，各委員の自己紹介があった。

(審議事項)

1. 第3期中期目標・中期計画について(事務課長，資料1)
事務課長から資料1により説明があった。本素案は既に提出されたものであるが，今週，本省からの問い合わせがあり，更なる修正の可能性がある旨報告があり，修正された場合には各委員に周知する旨，報告があり，とりあえず原案どおり了承された。
2. 平成27年度年度計画及び取組内容について(事務課長，資料2)
事務課長から資料2により説明があった。本案は既に提出され，本学の会議にも提出されているものであり，本年の取組内容についても，この旨了承された。
3. 平成26年度決算(案)及び平成27年度予算(案)について(事務課長，資料3)
事務課長から資料3により説明があった。本年度の予算案では「全学共通経費」等がすべて不可となり，かなり厳しい旨の説明があり，原案どおり了承された。
4. 総合情報メディアセンターの在り方検討WGについて(センター長，資料4)
センター長から，資料4により説明があった。前年度末から立ち上げ，今年度も引き続き検討するよう，現学長の意向である旨等縷々説明があり，原案どおり了承された。
5. その他
なし

(報告事項)

1. 本学ミュージアムHPの脆弱性に対するサイバー攻撃及び本学の対応(事務課長，宮内技術専門職員)
事務課長から，本学に対するサイバー攻撃があり，そのための各種対応を実施したこと等の説明があった。加えてこれから，各サーバに対する監査ツールによる監査等も実施する旨の報告があった。各部局にあっても意識の向上を依頼し，9月11日(金)実施の「セキュリティセミナー」への参加も依頼した。
2. SINET 5への移行について(宮内技術専門職員，資料5)
宮内技術専門職員から資料5により，平成28年4月からSINET 5へ移行する旨の報告があった。
3. その他
なし

【教員コア会議】

- ・平成27年4月22日(水) 平成27年度第1回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成27年5月27日(水) 平成27年度第2回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成27年7月1日(水) 平成27年度第3回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成27年10月29日(水) 平成27年度第4回総合情報メディアセンター教員コア会議
- ・平成28年2月15日(月) 平成27年度第5回総合情報メディアセンター教員コア会議

(7)センター規則

愛媛大学総合情報メディアセンター規則

〔平成23年4月1日〕
規則第 24 号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同利用の施設として、愛媛大学（以下「本学」という。）の情報基盤の整備を図り、教育研究活動の支援及び情報技術に関する教育研究を行うとともに、学内外の情報化に寄与することを目的とする。

(教育研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる教育研究部門を置く。

- (1) 情報基盤部門
- (2) 情報メディア教育部門
- (3) 学術情報システム部門

第2章 業務等

(業務)

第4条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 計算機システムに関すること。
- (2) ネットワークシステムに関すること。
- (3) 情報教育に関すること。
- (4) 学術研究支援に関すること。
- (5) キャンパス情報化に関すること。
- (6) eラーニングコンテンツの制作支援に関すること。
- (7) その他愛媛大学先端研究・学術推進機構長（以下「機構長」という。）の指示する業務

(組織)

第5条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター員
 - ア センターの専任教員
 - イ 本学の専任教員（アの者を除く。）若干人
 - ウ その他必要な職員

2 センター長候補者は、本学の専任の教授又は理事のうちから愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議（以下「学術研究会議」という。）が推薦し、学長が選考する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

4 センターの専任教員は、学術研究会議が推薦し、学長が選考する。

5 センター員のイの者は、センター長が推薦し、機構長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。

6 センター員のイの者の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第6条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センター員は、センターの業務を処理する。

(教育デザイン室)

第6条の2 センターに、eラーニングコンテンツの研究・開発及び制作支援等を行うため、愛媛大学総合情報メディアセンター教育デザイン室（以下「教育デザイン室」という。）を置く。

2 教育デザイン室に関し必要な事項は、別に定める。

(部会)

第7条 センターに、第4条に規定する業務に関する企画立案等を行う部会を置く。

2 部会に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

第3章 センター会議

(センター会議)

第8条 センターに、第4条に掲げる業務の運営に関する重要事項を審議するため、総合情報メディアセンター会議(以

下「センター会議」という。)を置く。

(組織)

第9条 センター会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター員 若干人
- (3) 各学部の専任教員 各1人
- (4) 総合情報メディアセンター事務課長
- (5) その他特に必要と認めた本学の職員

2 前項第2号の委員は、センター長が指名する。

3 第1項第3号の委員は、当該教員の所属する学部の長の推薦に基づき、機構長が委嘱する。

4 第1項第5号の委員は、センター長が推薦し、機構長が当該職員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。

5 第1項第2号、第3号及び第5号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第10条 センター会議に議長を置き、センター長をもって充てる。

2 議長は、センター会議を招集し、主宰する。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第11条 センター会議は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第12条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

第4章 利用等

(利用)

第13条 センターの利用に関する規程は、別に定める。

(分室)

第14条 センターに、医学部分室及び農学部分室を置く。

2 分室に関する規程は、別に定める。

第5章 雑則

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部総合情報メディアセンター事務課で処理する。ただし、分室における事務は、当該分室が所在する学部の事務部で処理する。

(その他)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

2 愛媛大学総合情報メディアセンター規則（平成16年規則第191号）は、廃止する。

3 愛媛大学総合情報メディアセンター運営委員会規程（平成16年規則第24号）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

愛媛大学総合情報メディアセンター分室規程

〔平成16年4月1日〕
規則第 192 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター分室（以下「分室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(分室長)

第2条 分室に分室長を置く。

2 分室長は、当該分室が所在する学部の愛媛大学総合情報メディアセンター会議委員（以下「センター会議委員」という。）をもって充てる。

3 分室長の任期は、センター会議委員として任命された期間とし、再任を妨げない。

4 分室長は、愛媛大学総合情報メディアセンター長の指示に従い、当該分室の業務を処理する。

(委員会)

第3条 分室の円滑な運営を図るため、分室に分室の運営に関する委員会を置くことができる。

(雑則)

第4条 この規程に定めるもののほか、分室に関する必要な事項は、分室長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

愛媛大学総合情報メディアセンター利用規程

〔平成16年4月1日〕
規則第 193 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学総合情報メディアセンター規則第13条の規定に基づき、愛媛大学総合情報メディアセンター（以下「センター」という。）が管理する計算機システム（以下「システム」という。）及びキャンパス情報ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）の利用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(利用者の資格)

第2条 システム及びネットワークを利用することができる者は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 愛媛大学の職員、学生及び附属学校生徒
- (2) その他センター長が適当と認めた者

(システム利用の手続)

第3条 システムを利用しようとする者は、所定の利用申請書をセンター長に提出するものとする。

2 前項の有効期限は、当該年度限りとする。

(ネットワーク利用の手続)

第4条 ネットワークを利用しようとする者は、所定の手続により、申請するものとする。

2 前項の有効期限は、ネットワーク利用が認められた者の資格が失われるまでとする。

(ポリシー等の遵守)

第5条 システム及びネットワークを利用する者は、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本方針、国立大学法人愛媛大学情報システム運用基本規則、国立大学法人愛媛大学情報システム運用・管理規程及び国立大学法人愛媛大学情報格付基準を遵守しなければならない。

(システム利用経費の負担)

第6条 利用に係る経費を負担する者（以下「支払責任者」という。）は、システム利用が認められた者の利用に係る経費を負担しなければならない。

2 前項の規定により支払責任者が負担すべき経費の額及び負担方法は、センター会議の議を経て、センター長が別に定める。

(ネットワーク利用経費の負担)

第7条 ネットワーク利用が認められた者の負担すべき経費の額及び負担方法は、センター会議の議を経て、センター長が別に定める。

(利用時間の制限等)

第8条 センター長は、システム及びネットワークの利用に関し、利用時間帯を制限し、又は指定することができる。

(機器の移動等の禁止)

第9条 センターの機器等に関し、次の各号に掲げる事項は禁止する。ただし、センター長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

- (1) 機器の移動又は変更
- (2) ソフトウェアの変更、追加

(利用承認の取消し等)

第10条 センター長は、センターに関する諸規則に違反する者があるとき、又はセンターの運営に重大な支障を生じさせるおそれのあるときは、その者の利用の承認を取消し又は利用を停止することができる。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、センター会議の議を経てセンター長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年9月12日から施行する。

案内図



〒790-8577 松山市文京町3
3 Bunkyo-cho Matsuyama 790-8577, Japan
TEL 089-927-8803・FAX 089-927-8805
<http://www.cite.ehime-u.ac.jp/>
2016.6発行